

# 第2回 在日米軍再編に係る 調査特別委員会

- 1 日時 : 平成18年2月10日(金) 13:00 ~
  - 2 場所 : 議会棟大会議室
  - 3 案件
- (1) 在日米軍再編に係る諸問題について
- 三沢飛行場及び岩国飛行場の調査結果等
- 1) これまでの経過
  - 2) 三沢飛行場の現地調査結果
  - 3) 岩国飛行場の現地調査結果

**(1) 在日米軍再編に係る諸問題について  
三沢飛行場及び岩国飛行場の調査結果等**

**1) これまでの経過**

---

# 「第1回 在日米軍再編に係る調査特別委員会」 開催(H17.12.14)後の経過

平成17年12月15日(木)～16日(金)

- 三沢飛行場(青森県) 現地調査  
騒音、事故、治安などについて調査。

平成17年12月19日(月)……………添付資料 - 1

- 札幌防衛施設局が苫小牧市に対し、質問事項の回答を実施。  
千歳市に対しても情報提供あるが、全て説明済みの内容。

平成18年 1月18日(水)～20日(金)

- 岩国飛行場(山口県) 現地調査  
騒音、事故、治安などについて調査。

平成18年 1月20日 (金)

○札幌防衛施設局 施設部長等が来庁し、説明を受ける。

現状は、協議が進んでいるが、訓練移転の内容は別に示されていない。

1月末までに、審議官級の協議が行われる。

平成18年 1月31日 (火)……………添付資料 - 2

○札幌防衛施設局 施設部長等が来庁し、説明を受ける。

当日午前中に行われた、関係閣僚会合の内容の説明。

訓練移転に関しては、現時点においても公表できるような内容は示されていない。

平成18年 2月 8日 (水)……………添付資料 - 3

○札幌防衛施設局 施設部長等が来庁し、説明を受ける。

2月9日から11日まで、東京において日米防衛・外務当局間協議が開催される。

来週中に千歳市からの質問事項に対する回答を行う。

## 2) 三沢飛行場現地調査結果

---

- 1 日 程 平成17年12月15日(木) ~ 16日(金)
- 2 場 所 三沢飛行場、三沢市役所

# 三沢飛行場の概要

## 三沢飛行場は、米空軍等と航空自衛隊及び民間航空との共同使用

所属部隊	米空軍第35戦闘航空団など
面積	1,578 ha
滑走路	3,000m × 45m
隊員数等	約10,000人（軍人・軍属・家族）
離発着回数	年間約46,600回（平成16年度実績。米軍、自衛隊、民間の区分は、非公開）
機種	（米軍）・F-16C/D戦闘機・P-3C対戦哨戒機 など （自衛隊）・F-2支援戦闘機・F-4EJ改支援戦闘機

（資料提供：三沢市）

# 三沢飛行場に常駐する主な航空機

< 米空軍 >



< F - 16 戦闘機 >



< P - 3C 対潜哨戒機 >

< 航空自衛隊 >



< F - 2 支援戦闘機 >



< F - 4EJ 改支援戦闘機 >

(資料提供:三沢市)

# 飛行規制等の協定について

- ・ 米軍と地元との協定はない。
- ・ 嘉手納飛行場に関する日米合同委員会合意が準用されている。
- ・ 静粛時間

米空軍は、22時から翌朝6時

航空自衛隊は、21時から翌朝7時

三沢市は、米軍(22:00～06:00)に航空自衛隊(21:00～07:00)と同様の飛行を要請している。

## ○騒音の軽減規制措置等に関する仙台防衛施設局長の回答

三沢飛行場における航空機騒音の軽減規制措置について

三沢対地射爆撃場の使用条件について

米海軍機による移動訓練について

- (航空自衛隊)第81航空隊の三沢飛行場の共同使用に伴う騒音及び危険防止対策について



# 飛行訓練の実態について

- 三沢基地所属機は通常訓練において早く高度を上げるなど騒音に配慮した飛行をしている。
- 飛行自粛時間(22時から翌朝6時)は守られている。また事情により深夜早朝に飛行する場合は事前に市に対し連絡がある。
- 土日、祝日は米軍の上級部隊等による演習でない限り飛行訓練は行われない。
- 米空軍が本国で行われる訓練に参加する場合や航空機のメンテナンスのために帰国する際には、土日、祝日、深夜早朝に離陸することもある。


**デモフライト(アクロバット飛行有資格者養成訓練)**  
は非常に騒音が大きい。

# 三沢飛行場周辺住民の聞き取り内容



- うるさくてテレビや電話が聞き取れない。（基地周辺500m以内に居住）
- 騒音は非常にうるさいが、基地はまちの地域活性化に必要だ。
- 基地による経済効果は非常に高い。基地は絶対必要。
- うるさくない、基地がなくなると困る。
- ゴルフ場は基地にしかなく、市民は米軍人と親しくなって基地内でゴルフをする。プレー代が安く(1プレイ3,000～4,000円)ゴルフ人口は多い。

# 市民と基地との友好的関係について



- ジャパンデー（日本文化を紹介）
- アメリカンデー（アメリカ文化を紹介）
- 日常生活における交流、親睦（異文化理解教育講座、小中学生のホームステイ事業、基地内からの講師派遣）
- 米軍人の友好活動（三沢漁港周辺の清掃奉仕活動、共同募金）
- 基地内のゴルフ場の開放（三沢市唯一のゴルフ場）
- 交流、情報発信の拠点として「国際交流センター」の建設
- 中心市街地活性化の一環として「アメリカ村」の建設

# 米軍人等による犯罪・交通事故及び航空機事故について

	H14年度	H15年度	H16年度	合計
<b>(1) 犯罪・交通事故</b>				
交通事故		2	3	5
窃盗事件	1			1
粗暴犯			2	2
その他		2	1	3
<b>(2) 航空機事故等</b>				
墜落	1			1
緊急着陸			3	3
部品落下	2		1	3
その他	1			1

報道された犯罪・事故件数

資料提供:三沢市

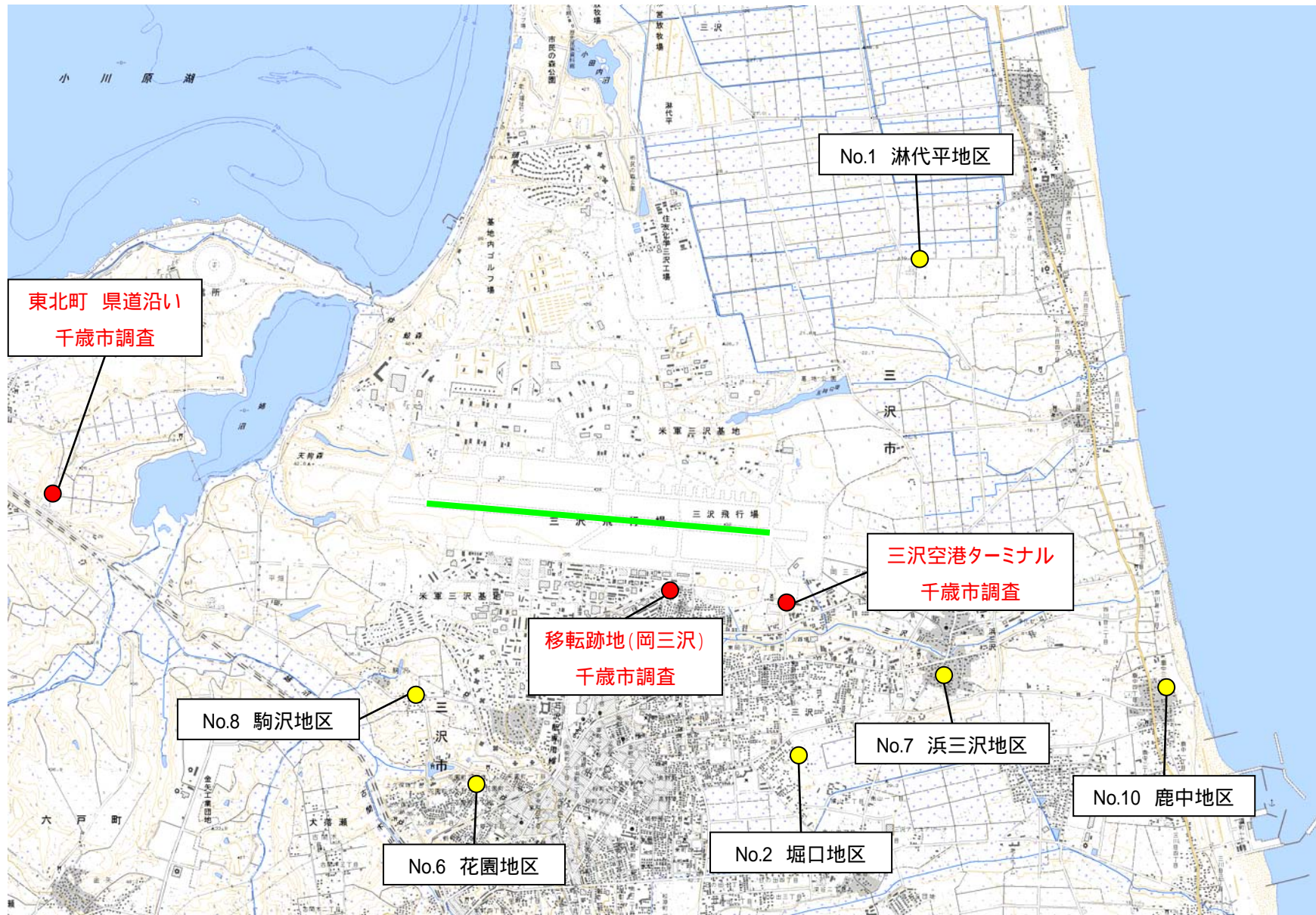
# 三沢飛行場の騒音調査結果

平成17年12月15、16日実施

千歳市在日米軍再編調査委員会

# 航空機騒音測定地点位置図

● : 千歳市調査地点    ● : 三沢市測定地点



## 一般的な騒音のレベル

dB(A)	事 例
120	飛行機のエンジンの近く
110	自動車の警笛（前方2 m）
100	列車が通るときのガードの下
90	大声による独唱、騒々しい工場
80	地下鉄の車内
70	電話のベル、騒々しい事務所の中、騒々しい街頭
60	静かな乗用車、普通の会話
50	静かな事務所
40	図書館、静かな住宅街の昼
30	ささやき声、郊外の深夜
20	木の葉のふれあう音、置時計の秒針の音（前方1 m）

出典：（財）日本環境協会「生活における騒音・振動を考える（環境シリーズ 55）」

## 日米共同統合演習時の状況(三沢)

(広報みさわ2005年1月号より抜粋)

演習名：日米共同訓練

期 間：平成16年11月10日(水)～19日(金)

測定地点名	期間中の 最高音 (dB)	ピーク値の パワー平均 (dB)	総測定 回数	測定 日数	1日あたり の測定回数 (回/日)
淋代平地区	98.7	84.1	799	10	79.9
堀口地区	97.4	85.3	568	10	56.8
根井地区	101.0	85.3	91	10	9.1
花園地区	89.4	79.0	524	10	52.4
浜三沢地区	96.1	84.2	772	10	77.2
駒沢地区	96.5	84.7	731	10	73.1
天ヶ森地区	88.4	79.4	33	10	3.3
鹿中地区	96.1	84.0	665	10	66.5



# 千歳市の状況(年間の測定結果)

期 間:平成15年度～平成16年度

最高音(dB)

測定地点	年度	
	15	16
青葉丘	113	116
住吉	110	111
東雲	111	110
寿	102	102
北斗	103	100
里美	96	92
根志越南	103	103
駒里東	103	99

パワー平均(dB)

		15	16
青葉丘		89	88
住吉		88	89
東雲		87	86
寿		79	79
北斗		81	80
里美		77	77
根志越南		82	83
駒里東		77	77

1日あたりの  
測定回数(回/日)

		15	16
青葉丘		37.2	40.8
住吉		31.4	31.4
東雲		20.9	16.9
寿		67.6	60.6
北斗		12.5	9.8
里美		2.4	2.3
根志越南		27.9	24.0
駒里東		20.9	21.9

## 三沢市独自の騒音測定結果については非公開

三沢市基地渉外課より聴取した内容から三沢市の騒音の状況について、千歳市と比較しまとめると…

- 騒音発生回数は、千歳市(住吉)よりも多い。  
(三沢飛行場の離着陸回数は、千歳飛行場のほぼ2倍である。)
- 土・日曜日の騒音発生割合は、千歳市(住吉)よりも少し高い。
- 早朝(0時～7時)の騒音発生回数は千歳市(住吉)よりも多いが、深夜(22時～24時)の騒音発生回数は両市の間で大差はない。

# 航空機騒音測定結果

H17.12.15 東北町 県道沿い

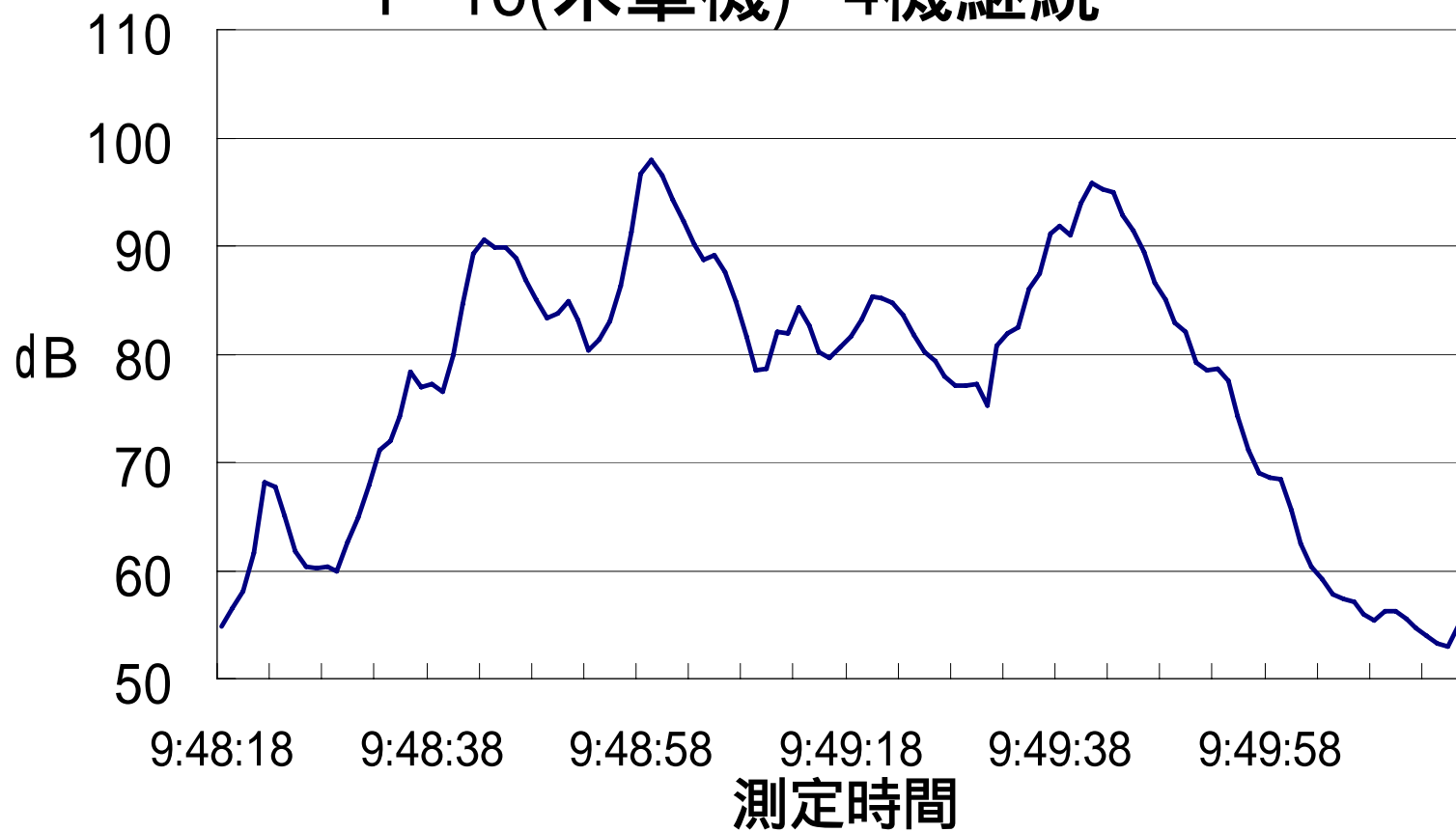
H17.12.16 東北町 県道沿い

移転跡地(岡三沢地区)

三沢空港ターミナルビル送迎デッキ

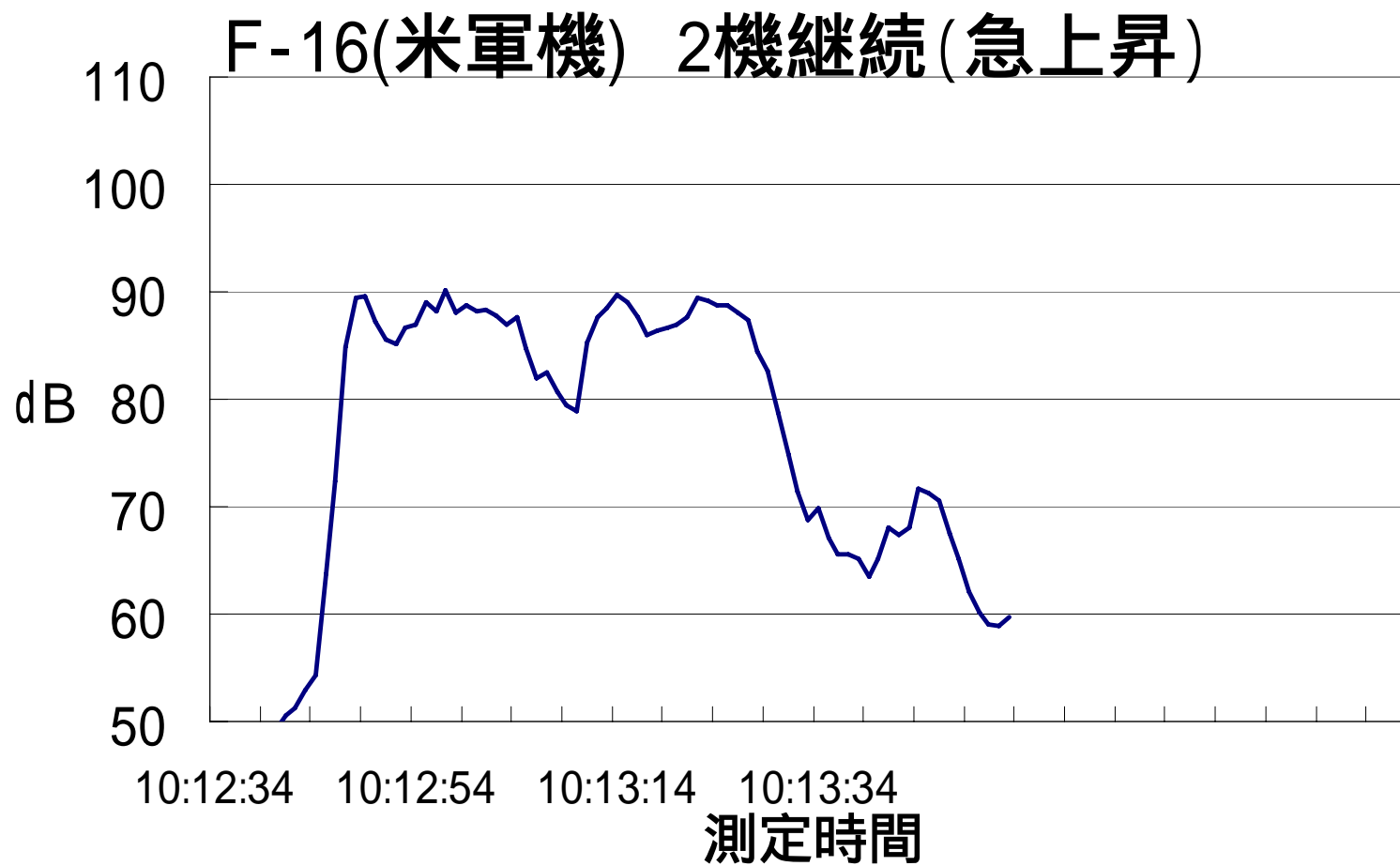
東北町(滑走路端から3.5km、住吉局相当) H17.12.16 千歳市測定

### F-16(米軍機) 4機継続



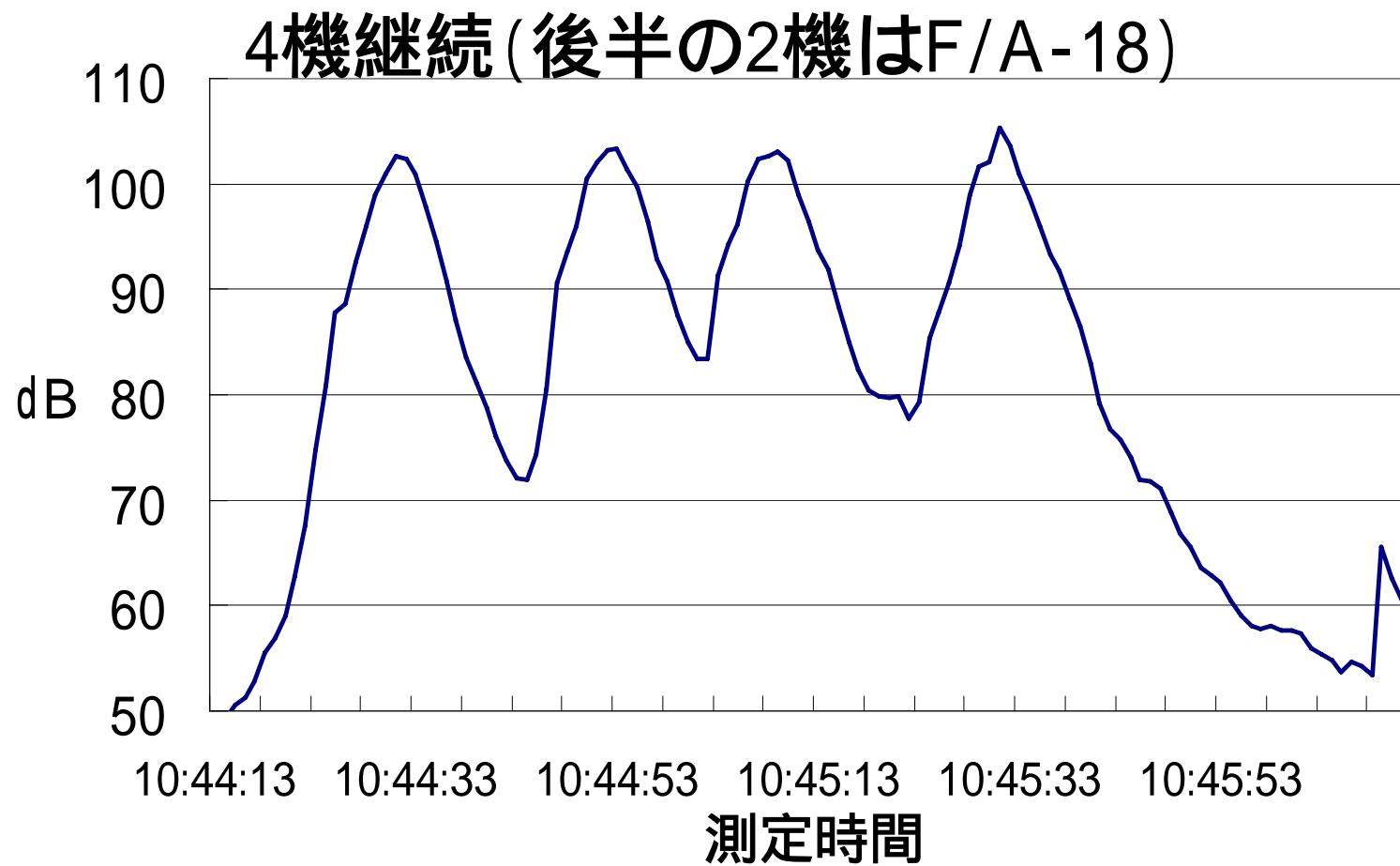
継続時間 84秒 最大値 97.9dB

東北町(滑走路端から3.5km、住吉局相当) H17.12.16 千歳市測定



継続時間 47秒 最大値 90.2dB

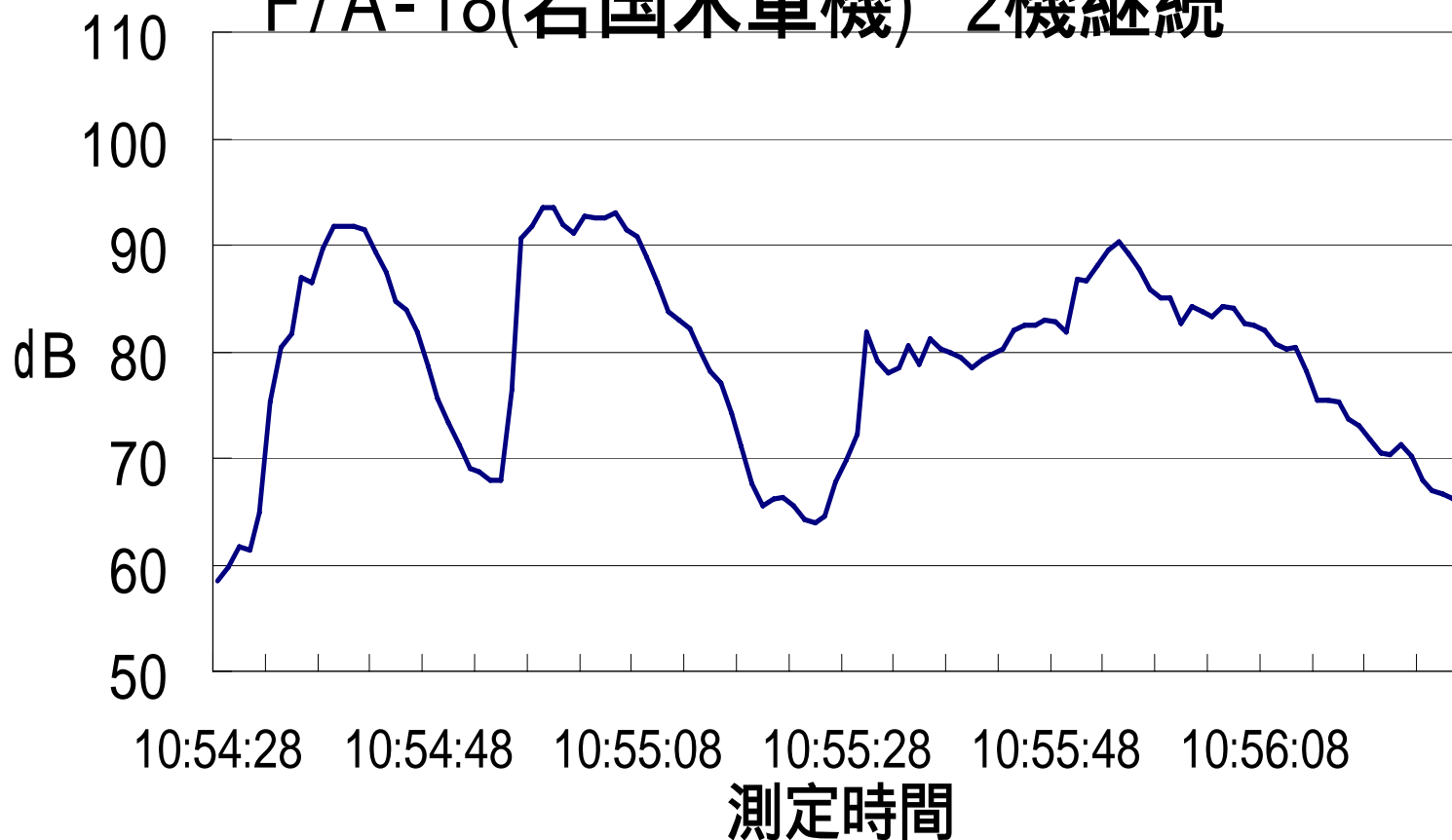
東北町(滑走路端から3.5km、住吉局相当) H17.12.16 千歳市測定



継続時間 85秒 最大値 105.3dB

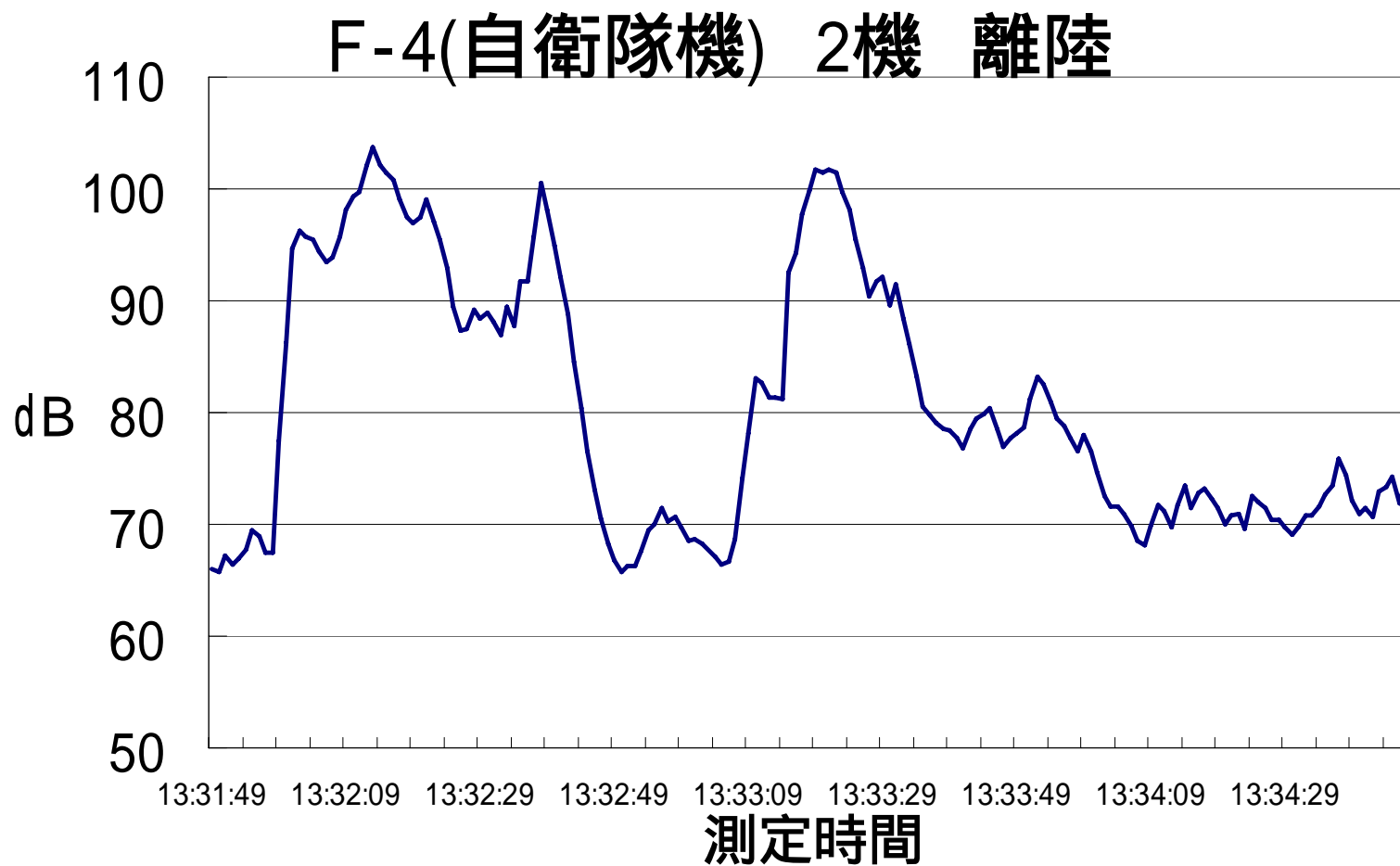
東北町(滑走路端から3.5km、住吉局相当) H17.12.16 千歳市測定

F-16(米軍機) 2機継続、  
F/A-18(岩国米軍機) 2機継続



継続時間 19秒、23秒、54秒 最大値 91.8dB、93.6dB、90.3dB

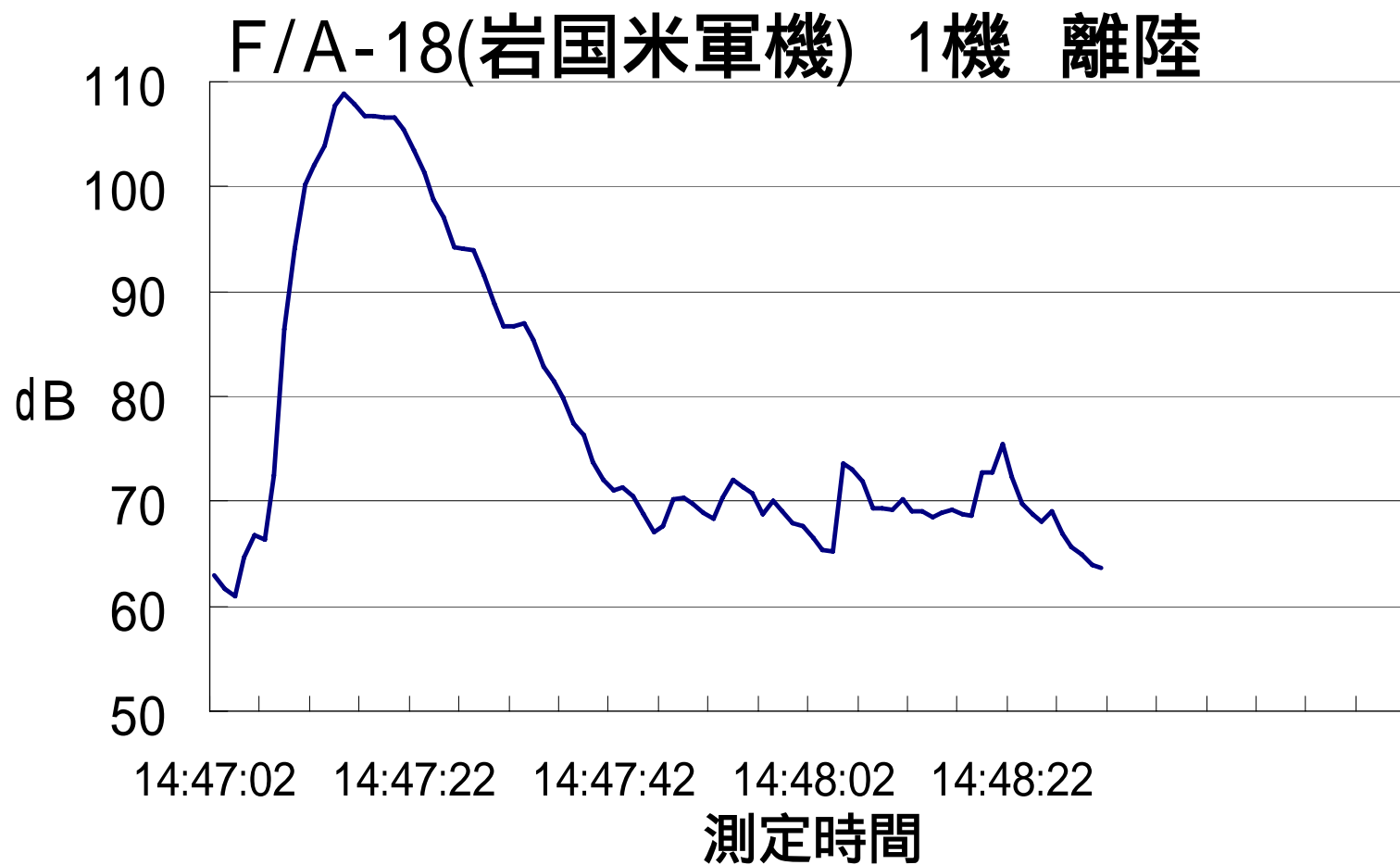
三沢空港ターミナルビル送迎デッキ(滑走路から0.5km) H17.12.16 千歳市測定



継続時間 49秒、58秒 最大値 103.8dB、101.8dB



三沢空港ターミナルビル送迎デッキ(滑走路から0.5km) H17.12.16 千歳市測定



継続時間 37秒 最大値 108.8dB

# 三沢市の防災対策



## 調査事項

災害発生時における協力協定等の有無

地域防災計画上での位置づけ

航空機や基地内で災害が発生した場合の連絡体制

その他

# 災害発生時における協力協定等の有無

## 米空軍との消防相互応援協定

米軍基地内における事故等で、軍の消防が出動する際の基地内住宅等における火災対応や、市内での火災対応において、市の消防のみでは対応できない場合の相互応援協定。

実際の消火実績はなし

# 地域防災計画上の位置づけ

最終改訂：平成13年度（平成18年度改訂予定）

## 航空機災害について

民航機・自衛隊機・米軍機における3つのパターンについて通報連絡体制と、各機関の措置について3ページにわたり記載。

## 措置が記載されている機関

- ・東京航空局　：連絡通報・消防活動・避難
- ・自衛隊　　　：連絡通報・消防活動・救助、搜索等(要請のあった場合)
- ・三沢警察署　：連絡通報・警戒区域の指定(立入制限、退去)
- ・青森県　　　：連絡通報・自衛隊派遣要請・他市町村応援要請
- ・海上保安本部：連絡津法・救助、消防活動等
- ・空港事務所　：連絡通報・消火救難活動

# 航空機や基地内で災害発生した場合の連絡体制

## 三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会

米軍や自衛隊、また、防衛施設局や航空局、青森県・警察・海上保安庁や近隣13市町村とその消防本部等32機関により構成されている連絡会議

(S54.2.9～)

協議会庶務は仙台防衛施設局が担当。

# 航空機や基地内で災害発生した場合の連絡体制

## 日本語によるホットラインの整備

三沢市・米軍・防衛施設事務所間にホットラインがあり、米軍側には日本語通訳が常駐していることから24時間相互に連絡が可能となっている。

## (その他)

### 三沢市防災訓練

- ・ 10月2日に地震を想定した実働型の防災訓練を実施。
- ・ 参加機関には米軍消防隊や航空自衛隊が含まれている。
- ・ 訓練内容：避難誘導訓練（警察・市民）  
救急関連訓練（医師会等）  
化学災害訓練（消防隊）  
救出・救護・初期消火訓練（自主防災組織）  
応急復旧訓練（ライフライン系企業）

### 3) 岩国飛行場現地調査結果

---

- 1 日程 平成18年1月18日(水) ~ 20日(金)
- 2 場所 岩国飛行場、  
岩国市役所、山口県庁

# 岩国飛行場の概要

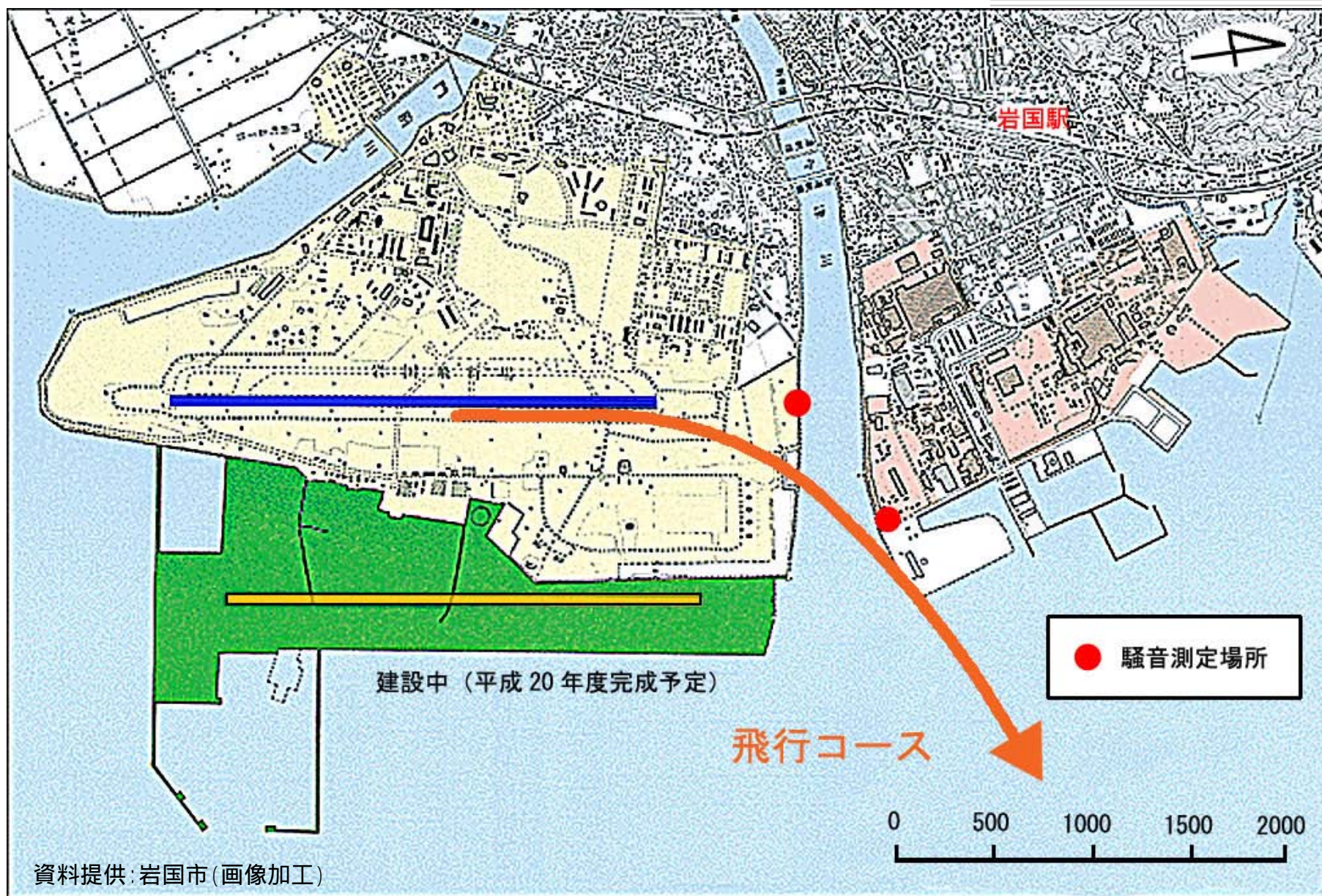
## 岩国飛行場は、米海兵隊と海上自衛隊との共同使用

所属部隊	米海兵隊第1海兵航空団など
面積	574 ha (市総面積の約2.6%) (海上自衛隊使用面積を含む)
滑走路	2,440m × 60m
隊員数等	約5,350人 (軍人・軍属・家族)
離着陸回数	年間約46,900回 (平成16年実績) 海上自衛隊機を含む
機種	F / A - 1 8    ホーネット戦闘攻撃機 A V - 8 B      ハリアー    攻撃機 E A - 6 B      プラウラー電子戦機      など    57機
その他	現滑走路の1 Km沖合に新滑走路を建設中 (H20年度完成予定)

(資料提供：岩国市)



# 岩国飛行場位置図





# 岩国飛行場関連の中間報告(共同文書)の主な内容

## ( 1 ) 空母艦載機の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐

F / A - 1 8 ( 戦闘攻撃機 : ホーネット )

E A - 6 B ( 電子戦機 : プラウラー )

E - 2 C ( 早期警戒機 : ホークアイ ) 計 5 7 機

## ( 2 ) 海上自衛隊飛行隊の岩国飛行場から厚木飛行場への移駐

O P - 3 C ( 画像情報収集機 )

E P - 3 ( 電子戦データ収集機 ) など 計 1 7 機

## ( 3 ) 訓練の移転

嘉手納を始めとして、三沢飛行場や岩国飛行場といった  
米軍航空施設から他の軍用施設への訓練の分散を拡大する。

# 岩国飛行場に常駐する主な航空機



# 飛行規制等の協定について

## 岩国日米協議会での確認事項

(一部抜粋)

### 1 飛行方法

- ・ **安全上許す限り工場及び市街地の上空を飛行しない。**
- ・ 北側（工場側）へ向かっての2機以上の編隊離陸は行わない。
- ・ 気象条件等が許す限り南側で離着陸を行う。
- ・ 盆（13日～16日）は飛ばないようにする。
- ・ **滑走路運用時間（06:30～23:00）外の使用は市に通報する。**
- ・ 正月3が日は訓練を実施しない。
- ・ 22時以降のタッチアンドゴーは行わない。

(資料提供：岩国市)

# 飛行訓練の実態について



- ・ 岩国日米協議会での確認事項は、概ね順守されている。

滑走路運用時間：06:30～23:00

( 海上自衛隊機は、深夜・早朝に飛行することもある。 )

離着陸時には、滑走路北側の工場地帯を避けて飛行するように配慮されている。

正月3が日などの飛行自粛。

# 岩国飛行場周辺住民の聞き取り内容

- ・ 最近反対運動が盛り上がっているなので全体的に騒音は静かである。
- ・ 朝の 8 時頃から夜の 9 時頃まで飛行していて、耳が痛くなるほどやかましい。
- ・ 防音工事はしているが、ぜんぜんテレビの音が聞こえない。
- ・ 外で会話ができない。
- ・ 地域のお祭りのときも関係なく飛行している。
- ・ 飛行協定（ 23 : 00 ~ 06 : 30 ）は、だいたい守られている。
- ・ 現在岩国基地に 57 機飛行機があるが、これに厚木から 57 機もってくると滑走路 1 本では訓練できないのでは。
- ・ 中国山脈の山の中で低空訓練をしているので広島県が反対している。
- ・ 土日は訓練をやらない。アメリカの祝日や正月 3 が日もやらない。
- ・ エンジンテストの騒音もうるさい。

# 米軍人等による犯罪・交通事故及び航空機事故について

## 1 犯罪

年度	凶悪犯		粗暴犯		窃盗		知能犯		その他		岩国警察署管内の全刑法犯に占める総件数及び比率			
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	%	人員	%
H14	0	0	4	4	3	5	0	0	1	2	8	0.3	11	2.3
H15	1	1	6	6	9	11	0	0	5	2	21	0.98	20	3.58
H16	0	0	3	4	17	7	0	0	1	2	21	0.88	13	3.1

## 2 交通事故

年度	事故発生件数				死傷者数			
	人身事故	物損事故	総数	管内総数に占める割合	死者	傷者	総数	管内総数に占める割合
H14	4	41	45	1.13%	0	4	4	0.36%
H15	16	72	88	2.30%	0	21	21	1.90%
H16	10	31	41	1.06%	0	3	3	0.27%

## 3 航空機事故（平成14年度～平成16年度）

部品等落下 1件

参考：岩国市人口  
米軍人等

約106,000人  
約5,300人

（資料提供：岩国市）

# 岩国市議会全員協議会での質疑内容(要旨)

1 日時・場所 平成18年1月20日(金) 午前10時～午後0時45分 岩国市議会議場

2 出席者 岩国市議会議員  
防衛施設庁施設部長 戸田量弘  
防衛施設庁施設部防音対策課長 田淵 眞二  
防衛庁防衛部防衛政策課長 眞部 朗  
広島防衛施設局長 坂本 憲一

## 4 内容(要旨)

- ・ 訓練移転候補地の飛行場として、千歳飛行場、百里飛行場、小松飛行場、築城飛行場、新田原飛行場を考えている。
- ・ 2006年3月までに最終報告を作成するよう協議をすすめている。
- ・ 中間報告(共同文書)の修正及び白紙撤回はない。
- ・ N L Pは硫黄島で実施する。(低騒音機を除く。)
- ・ 艦載機の移駐は、滑走路沖合移設事業が完了する平成20年度末を予定。
- ・ 中間報告(共同文書)に示した個々の事案は、最終的にはすべて完成させる必要があるが、そのプロセスにおいて早い遅いがあってもやむを得ない。
- ・ 中間報告(共同文書)に示した内容の他に、今後、なし崩し的に新たな提案をすることは考えていない。



# 岩国飛行場の騒音調査結果

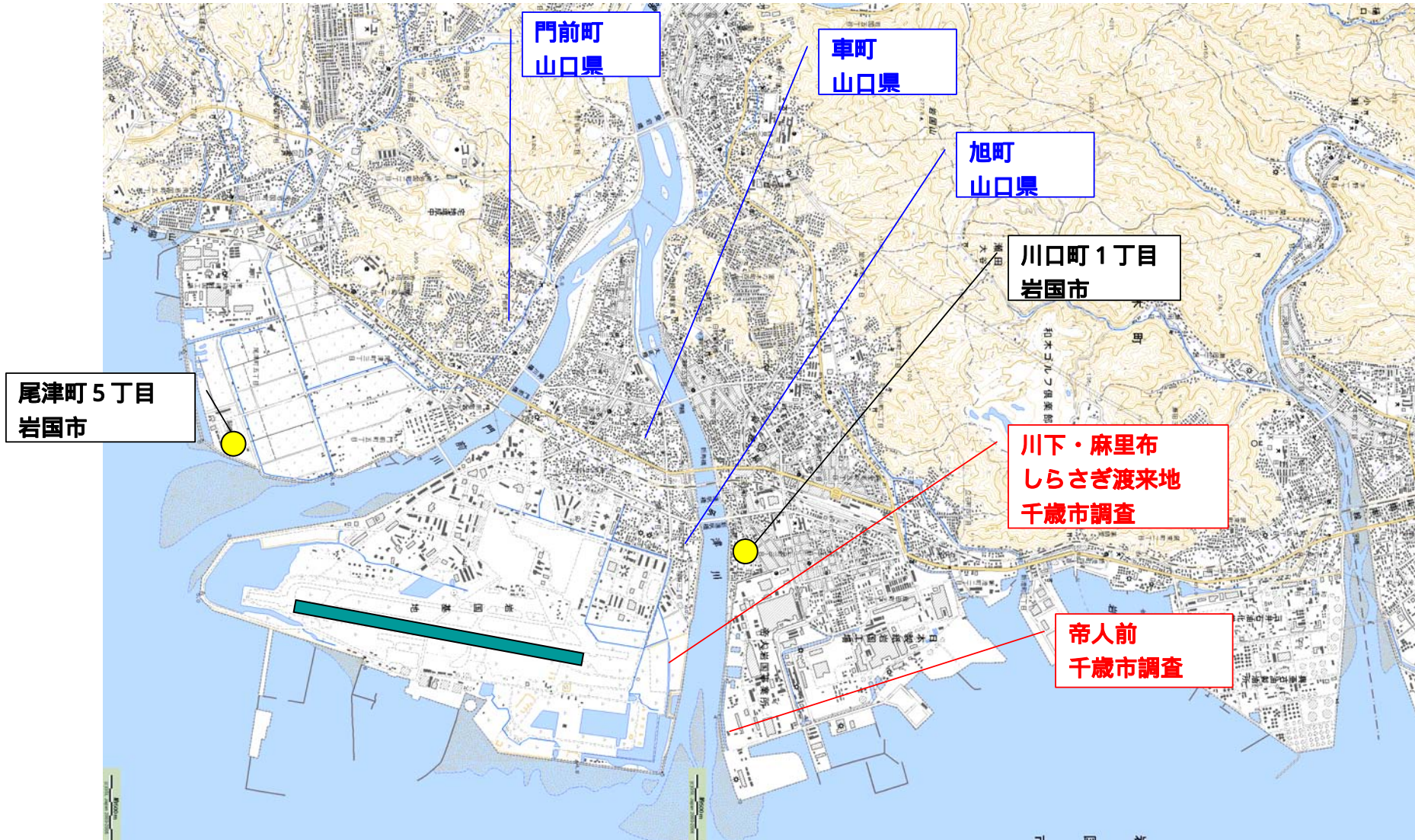


平成18年1月18、19、20日実施

千歳市在日米軍再編調査委員会

# 航空機騒音測定地点

● : 千歳市調査地点    ● : 岩国市測定地点    ● : 山口県測定地点



## 航空機騒音測定結果の概要(岩国)

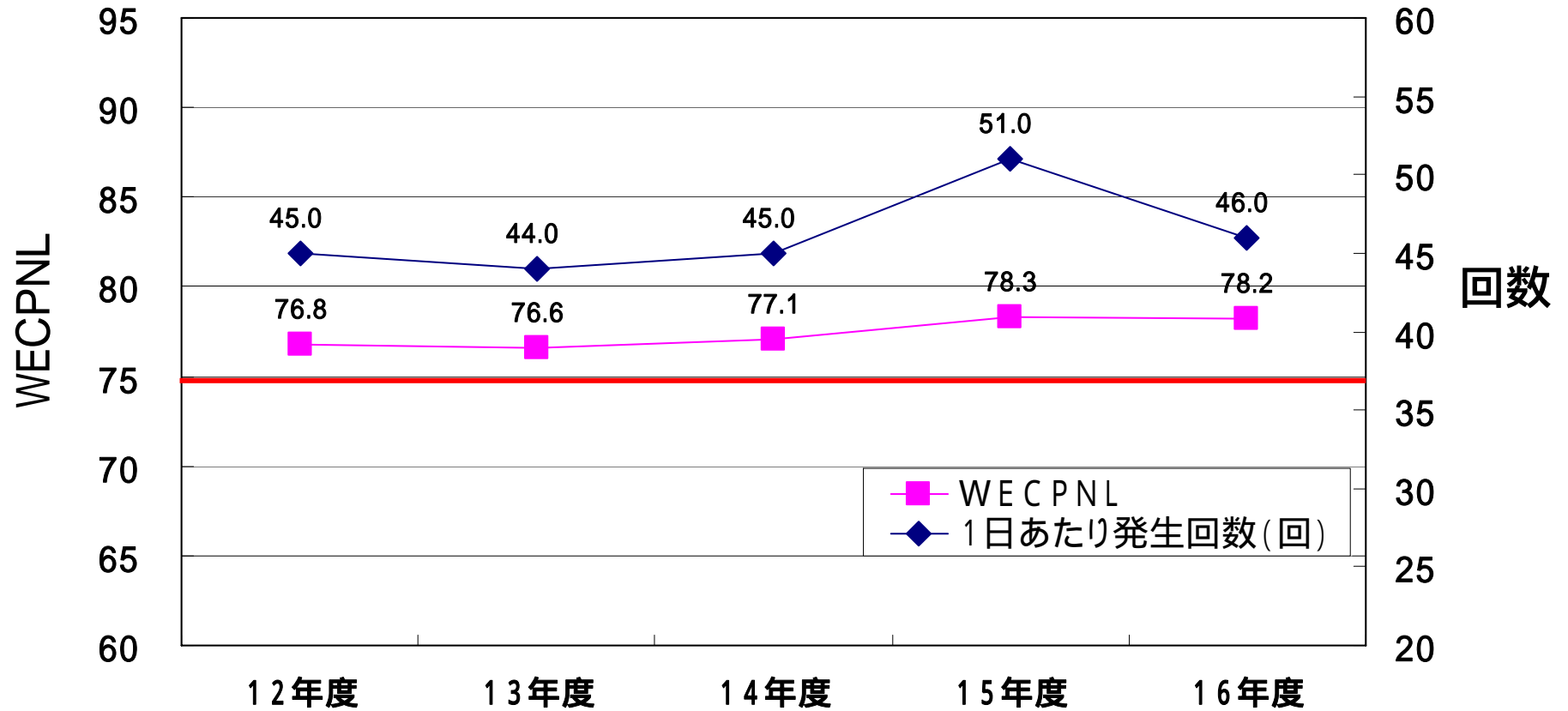
測定地点		環境基準		測定結果			
				WECPNL(年度)			16年度
		類型	WECPNL	14	15	16	dB最大値
岩国市設置	川口町1丁目		75	77.1	78.3	78.2	102.9
	尾津町5丁目		75	82.4	80.9	80.4	108.2
山口県設置	門前町		70	67	67	67	99
	旭町		75	79	80	80	107
	車町		75	73	74	74	99

### 航空機騒音測定局の測定結果

区分	設置場所	環境基準		測定結果				
		類型	基準値 WECPNL	WECPNL(年度)			16年度 dB最大値	
				14	15	16		
千歳市設置局	青葉丘局	青葉丘2015番地		75	79	80	80	116
	住吉局	住吉1丁目		75	79	77	79	111
	東雲局	東雲町3丁目		75	76	76	74	110
	寿局	寿1丁目		75	72	71	71	102
	北斗局	北斗1丁目		70	68	68	66	100
	里美局	里美3丁目		70	57	57	57	92
	駒里東局	駒里849番地		75	64	64	64	99
	根志越南局	根志越19番地		75	72	71	72	103
北海道設置局	東郊局	東郊1丁目		75	76	76	78	125
	梅ヶ丘局	梅ヶ丘1丁目		75	73	74	74	105
	富丘局	富丘3丁目		70	66	66	66	107
	稲穂局	稲穂4丁目		75	77	76	77	110
	根志越東局	根志越66番地		75	67	67	68	101
	旭ヶ丘局	旭ヶ丘4丁目		75	74	74	75	111
	駒里局	駒里2212番地		75	64	63	63	99
	あけぼの局	日の出1丁目		75	74	74	75	110
弥生公園局	弥生3丁目		75	73	73	72	100	
<p>1 類型：都市計画による第1種・第2種低層住居専用地域と第1種・第2種中高層住居専用地域</p> <p>類型： 類型以外の地域であって通常的生活を保全する必要がある地域</p>								

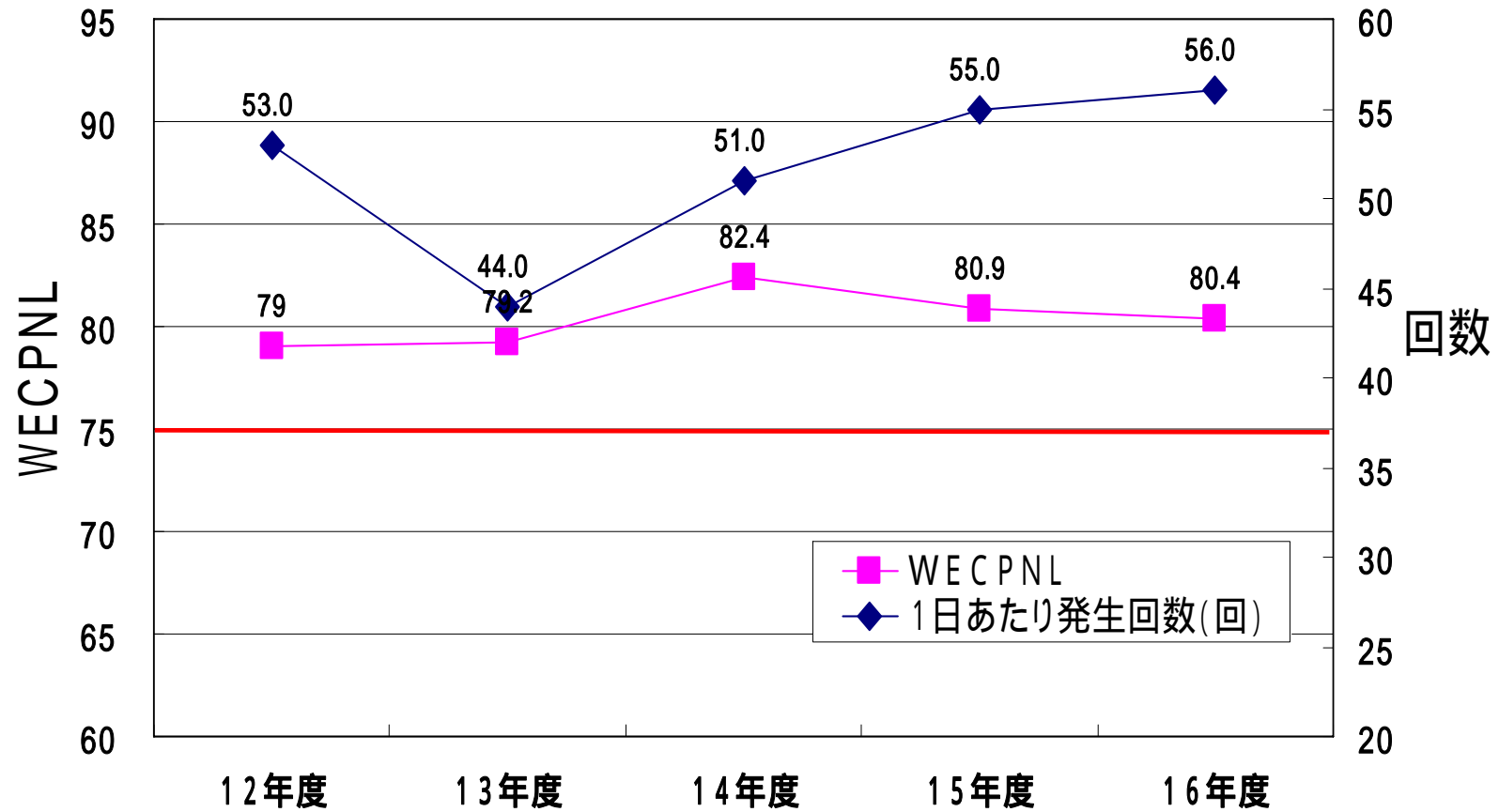


# 年度別WECPNLと1日あたり発生回数(岩国・川口)



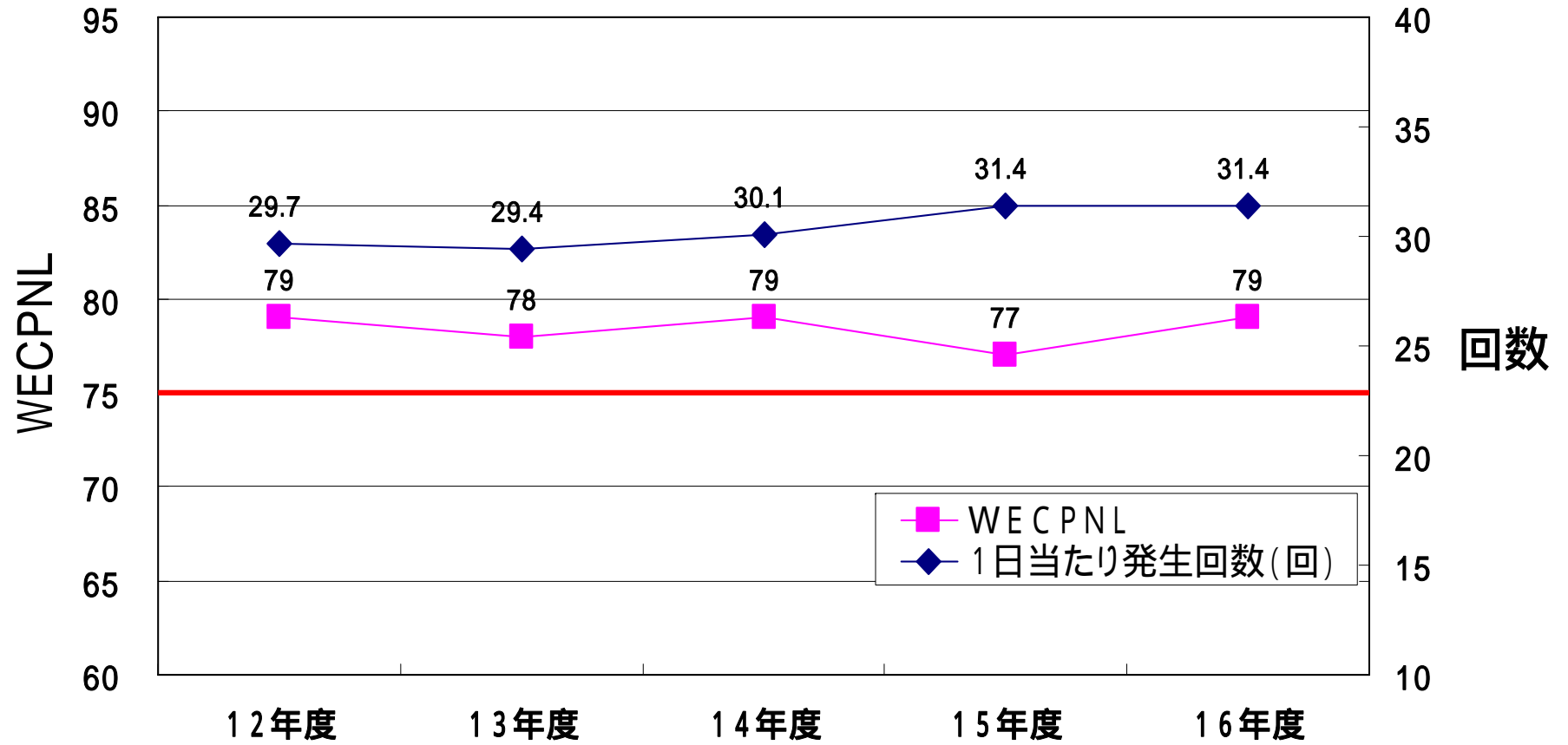
資料提供：岩国市

## 年度別WECPNLと1日あたり発生回数(岩国・尾津)

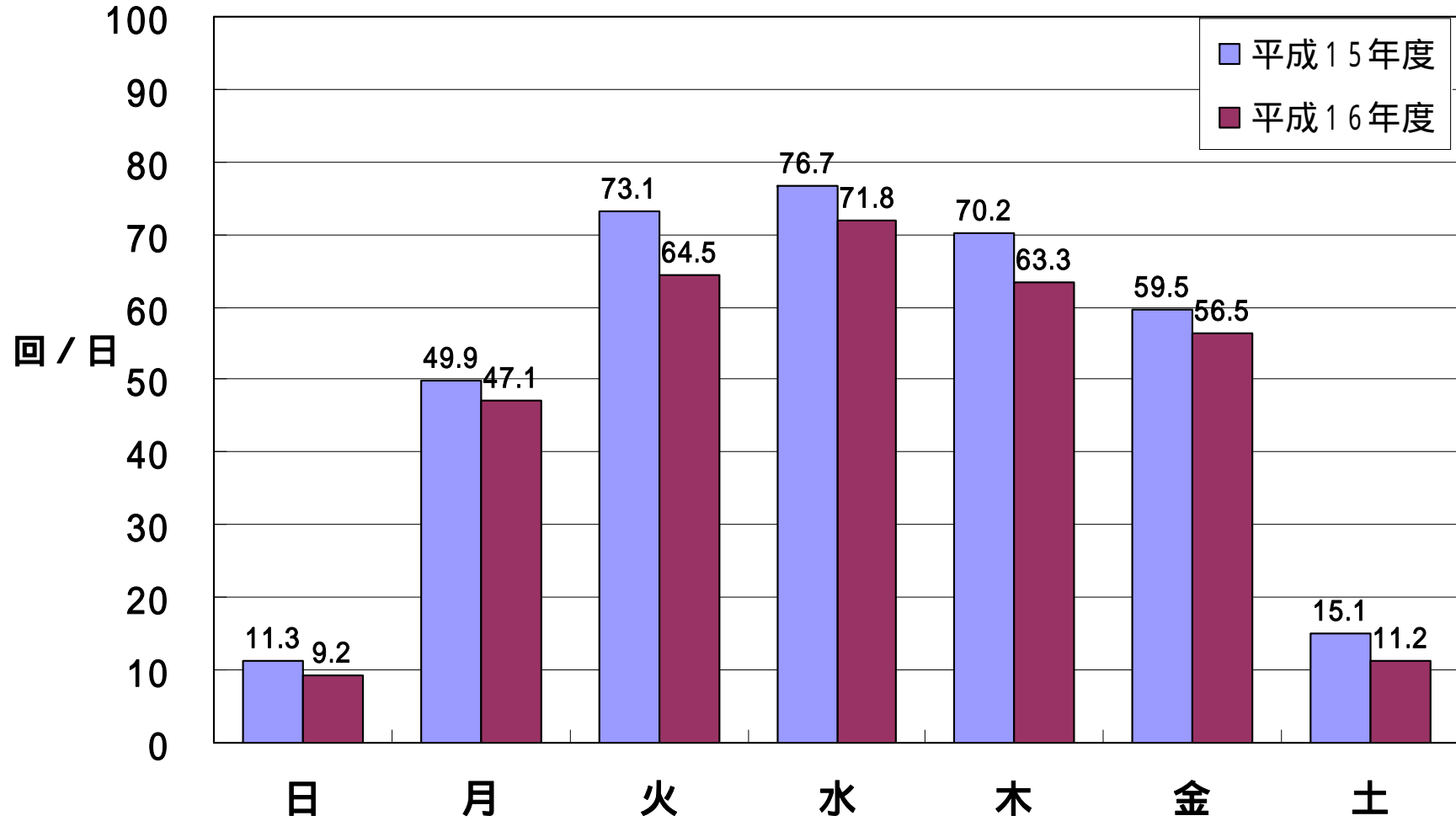


資料提供：岩国市

年度別WECPNLと1日あたりの発生回数(千歳・住吉)



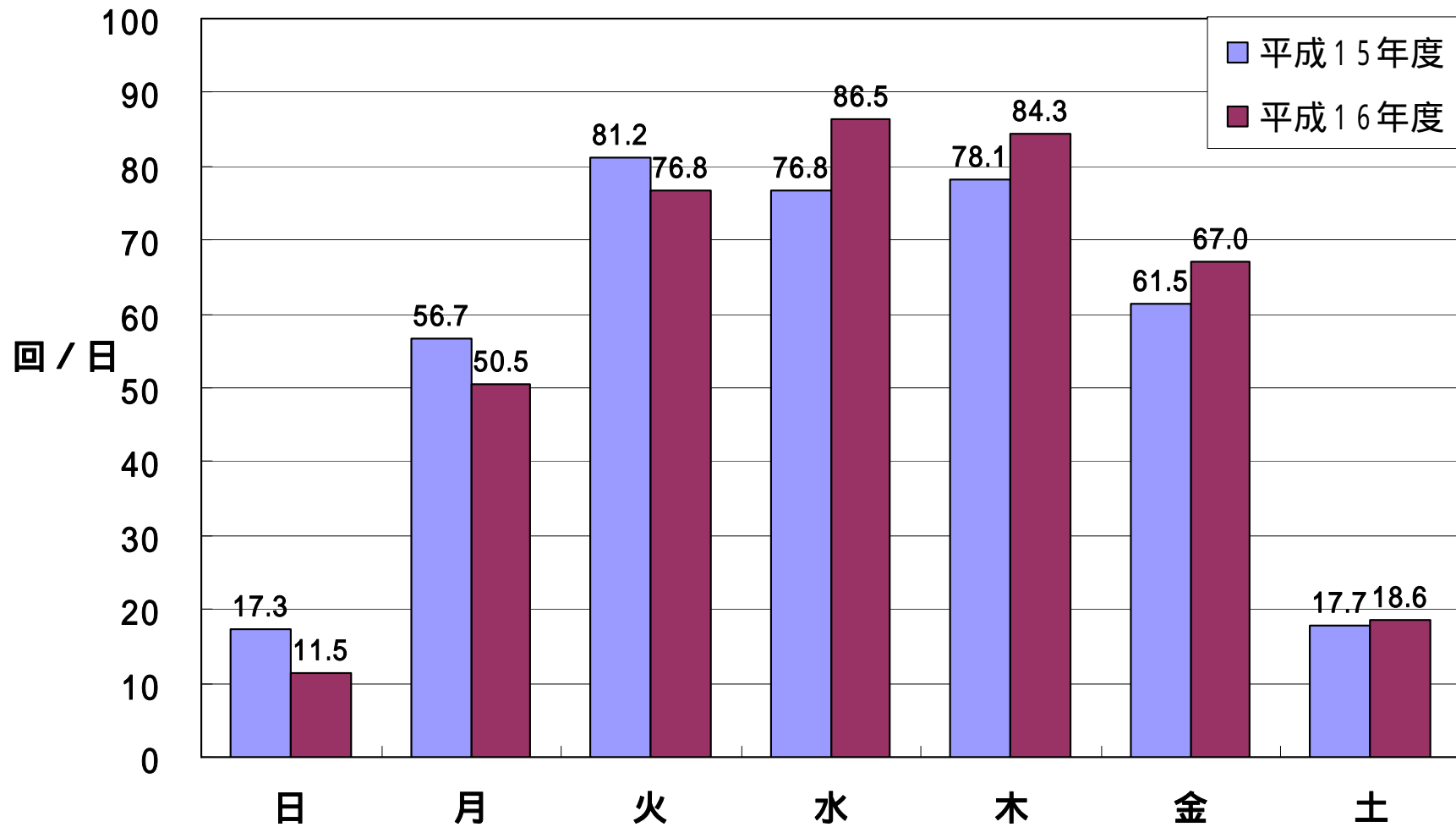
# 1日あたりの曜日別騒音発生回数(岩国・川口)



資料提供：岩国市

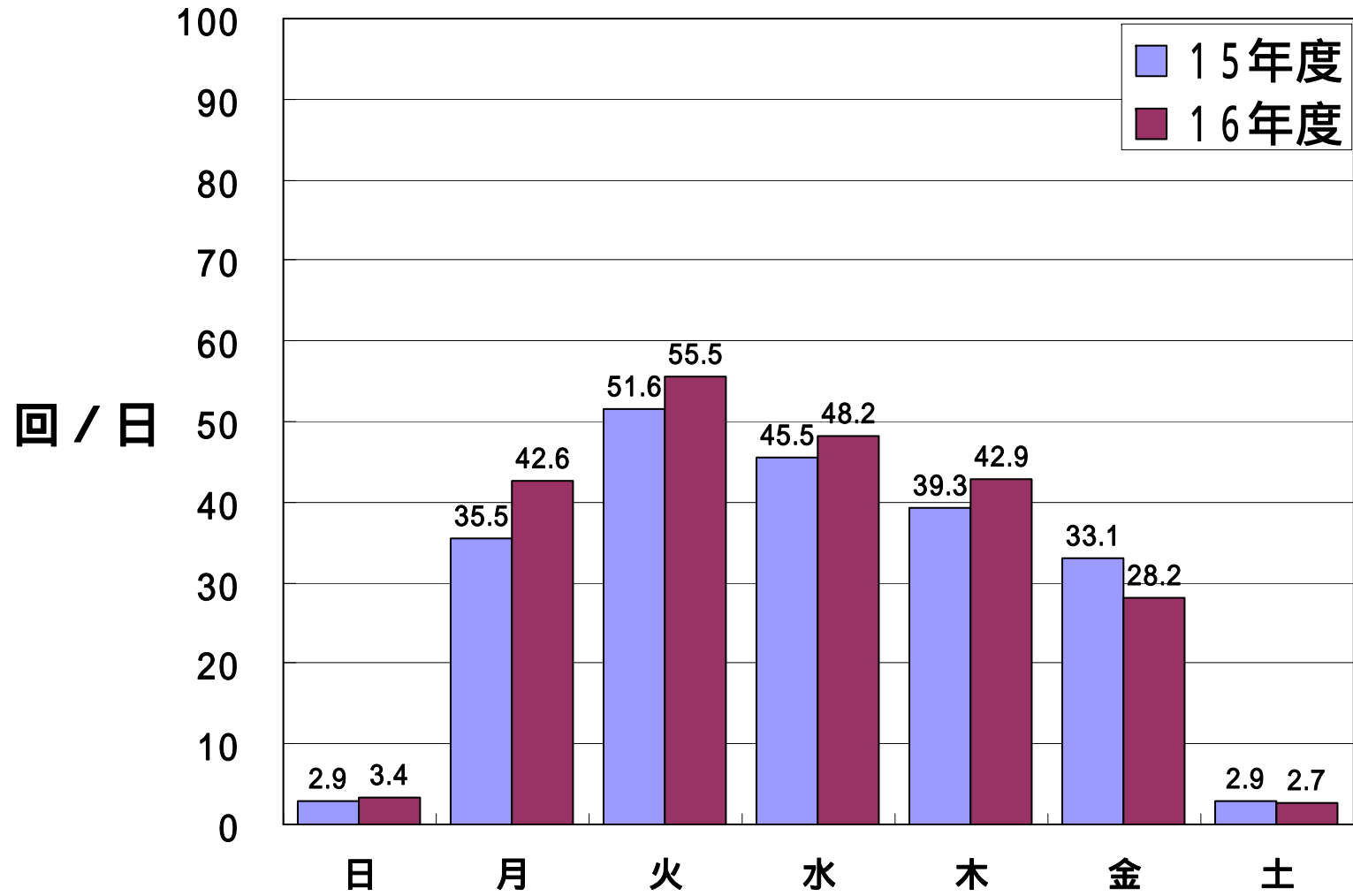


## 1日あたりの曜日別騒音発生回数(岩国・尾津)

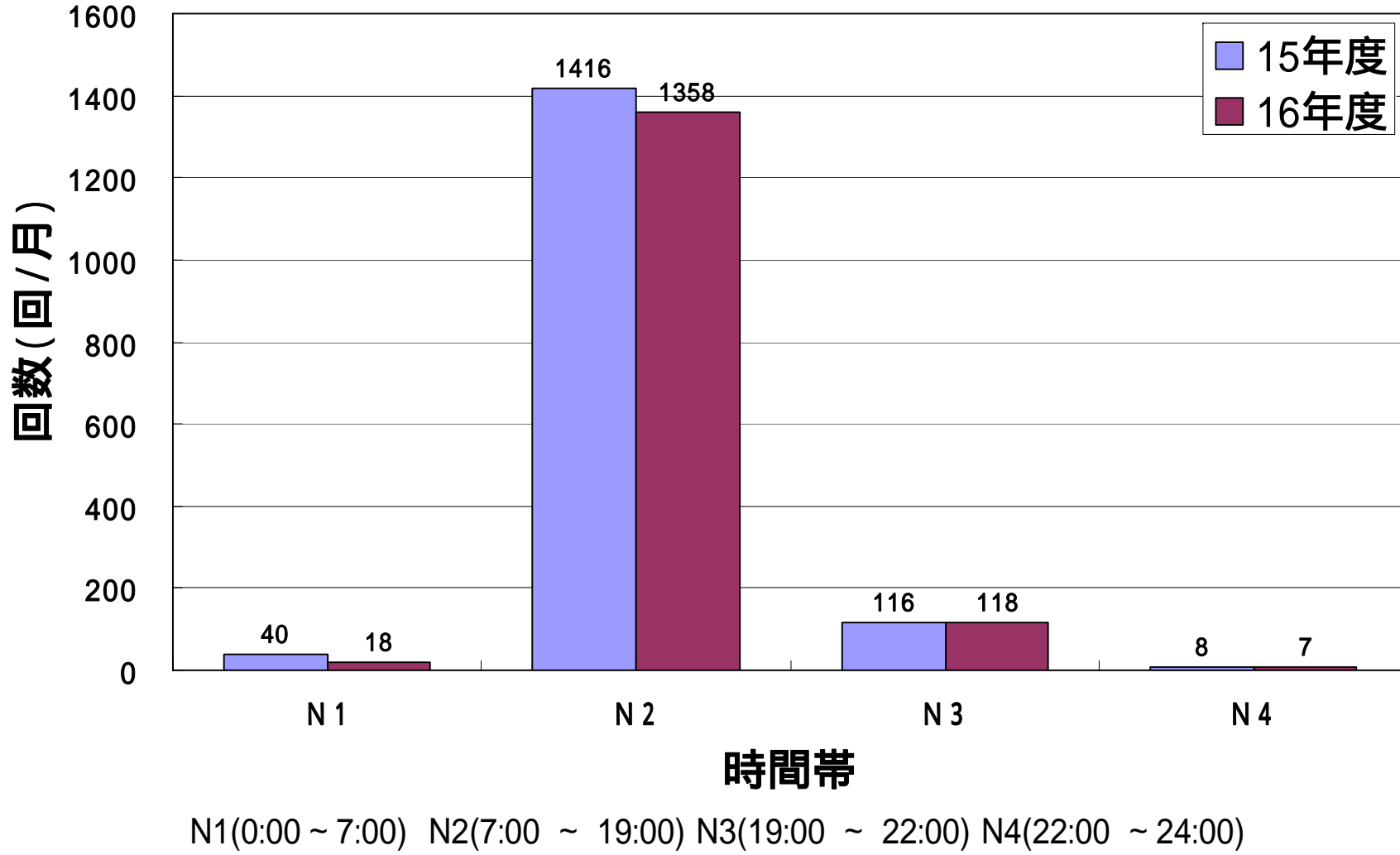


資料提供：岩国市

## 1日あたりの曜日別騒音発生回数(千歳・住吉)

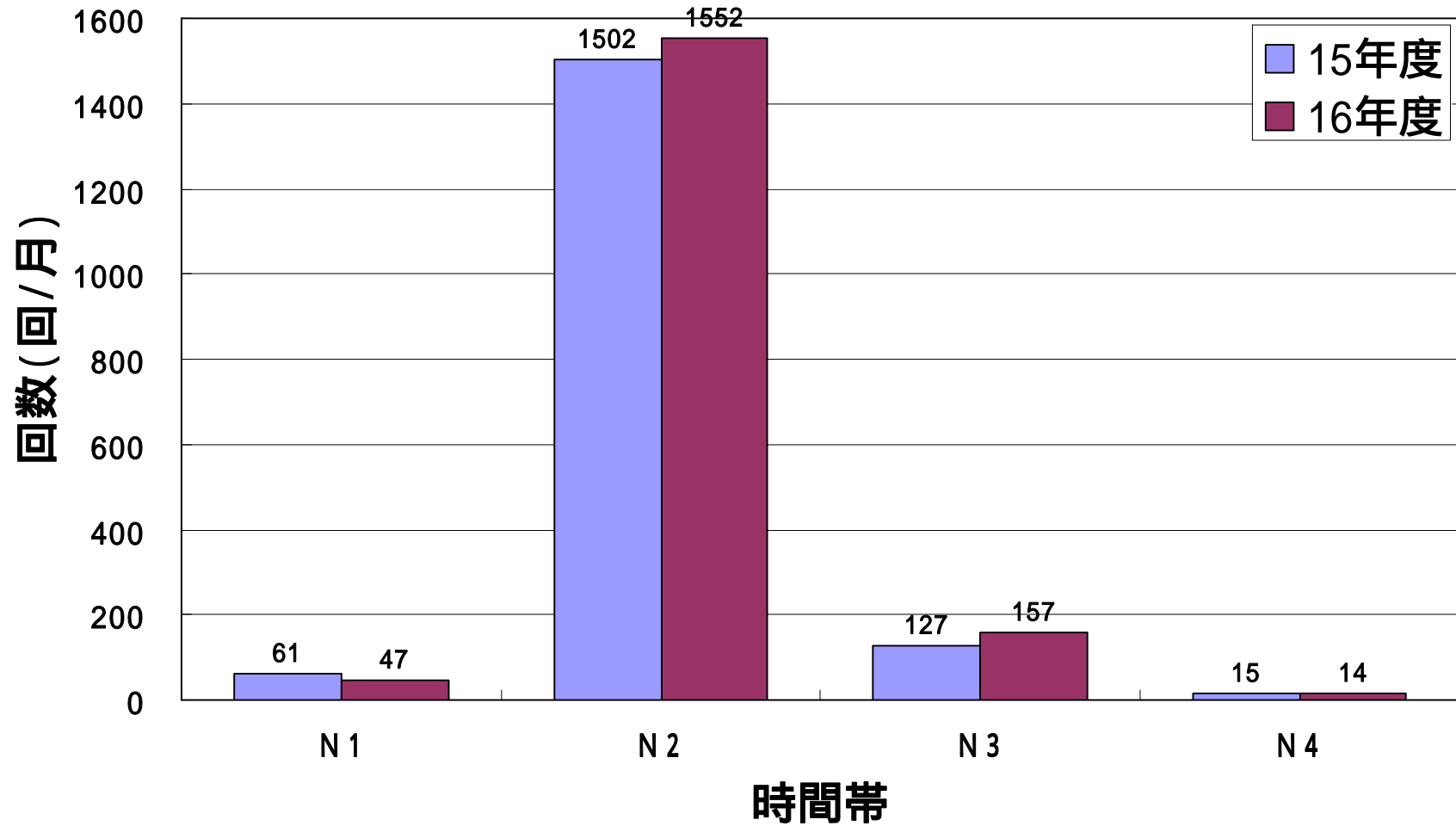


## 時間帯別の月平均騒音発生回数(岩国・川口)



資料提供：岩国市

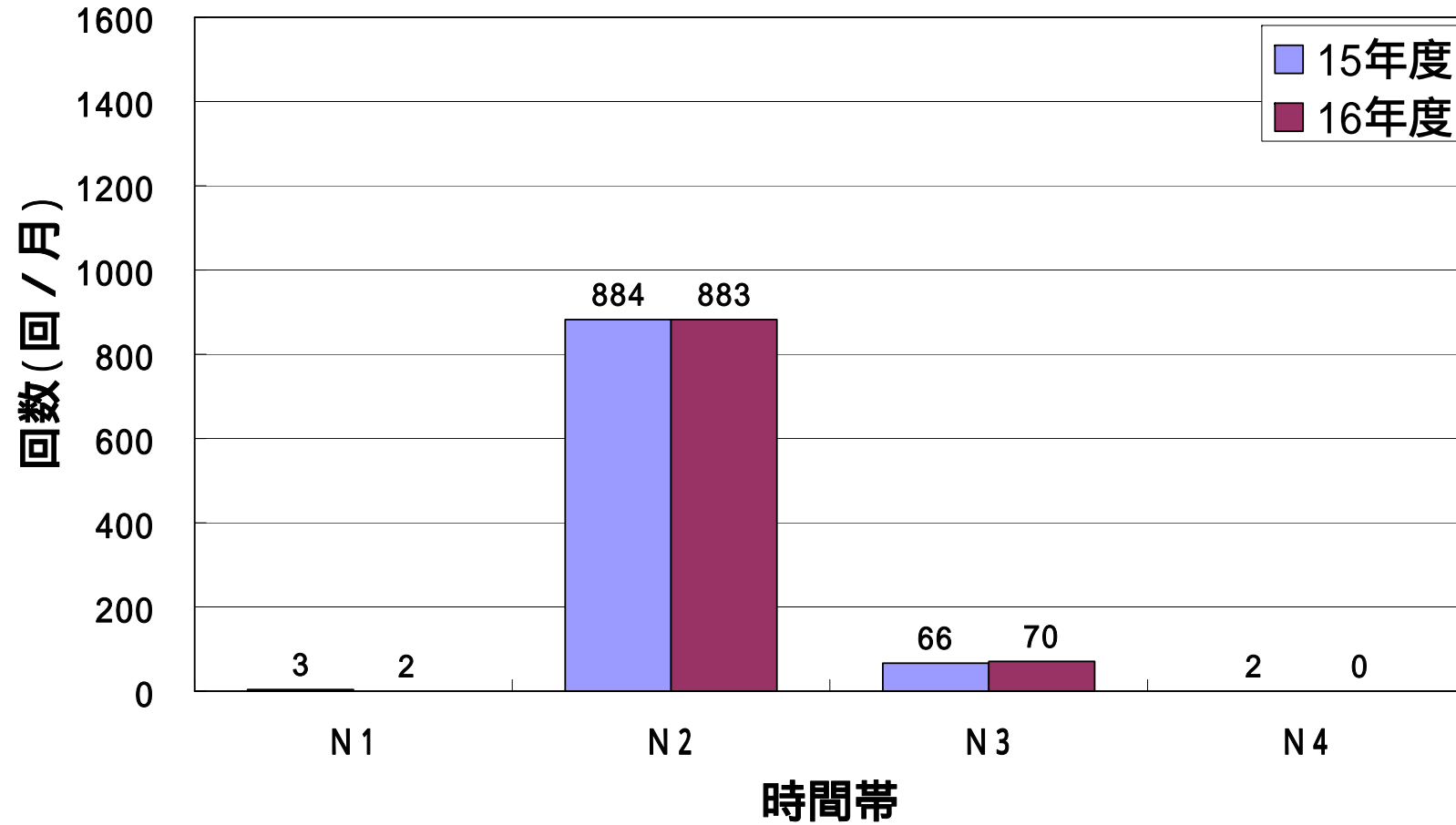
## 時間帯別の月平均騒音発生回数(岩国・尾津)



N1(0:00 ~ 7:00) N2(7:00 ~ 19:00) N3(19:00 ~ 22:00) N4(22:00 ~ 24:00)

資料提供：岩国市

## 時間帯別の月平均騒音発生回数(千歳・住吉)



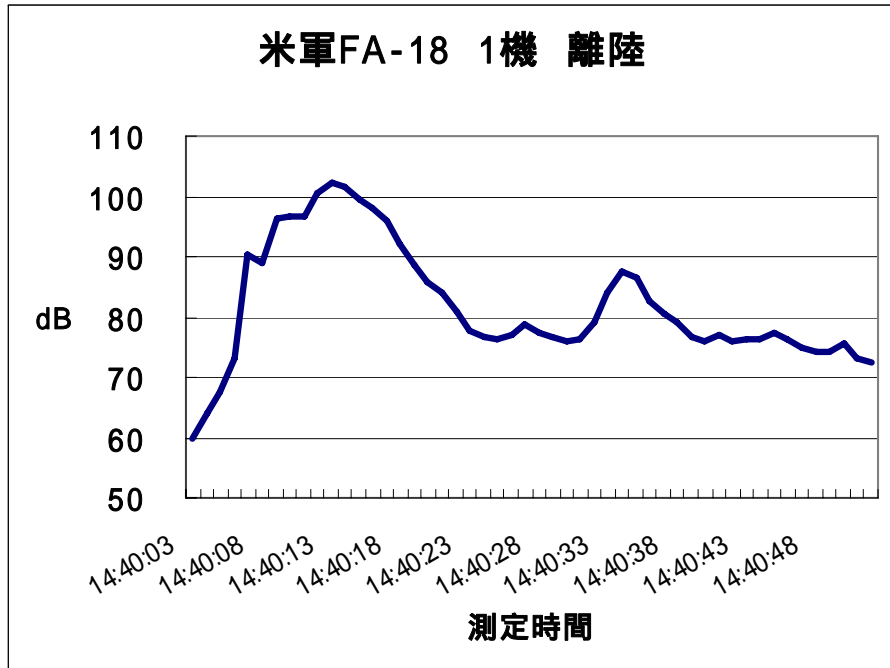
N1(0:00 ~ 7:00) N2(7:00 ~ 19:00) N3(19:00 ~ 22:00) N4(22:00 ~ 24:00)

# 航空機騒音測定結果

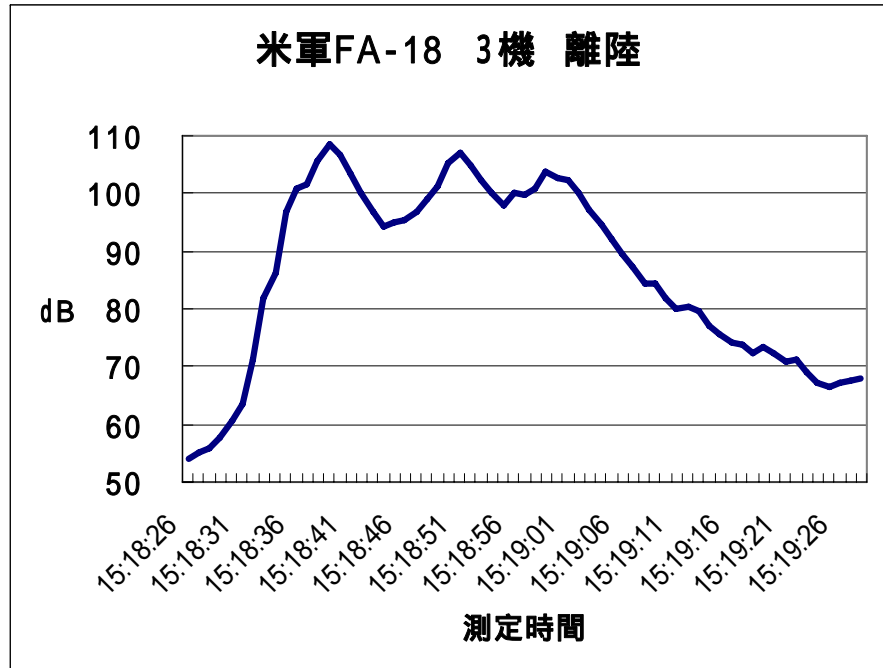
H18.1.19 川下・麻里布 しらさぎ渡来地

H18.1.19 帝人工場前

千歳市測定 川下・麻里布 しらさぎ渡来地  
(滑走路端より0.4km、国道36号・中央大通交差点相当)

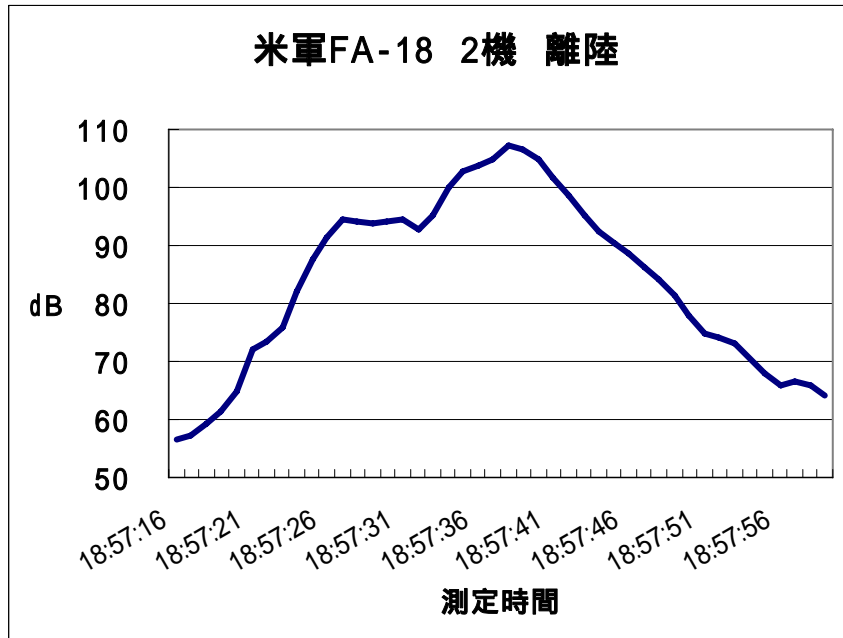


継続時間 47秒 最大値 102.3dB

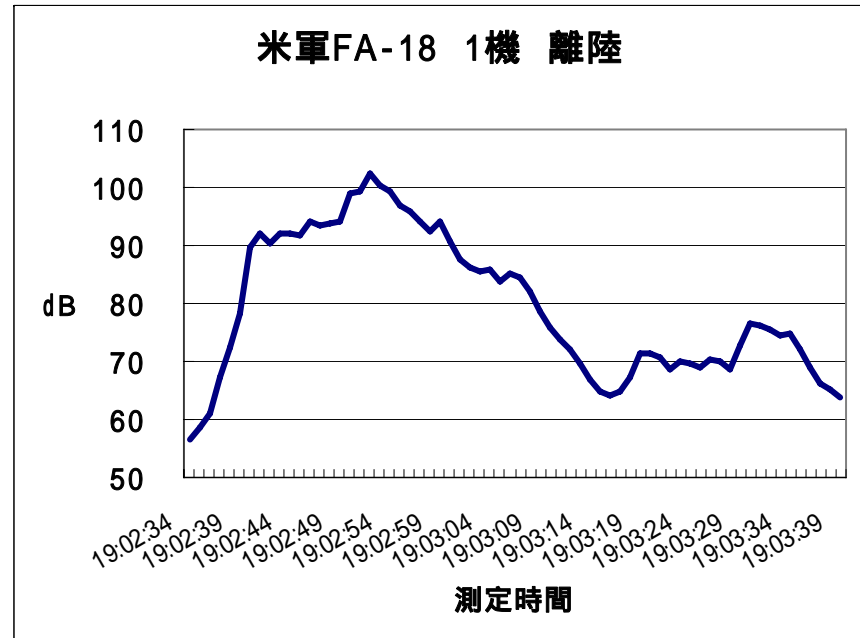


継続時間 51秒 最大値 108.5dB

千歳市測定 帝人工場前  
(滑走路端より0.9km、青葉8丁目アソカレッジパーク第2駐車場相当)



継続時間 34秒 最大値 107.2dB



継続時間 35秒 最大値 102.4dB



## 苫小牧市からの質問に対する回答

## 【現時点で回答可能なもの】

- 1 現在の米軍航空施設である、嘉手納飛行場・三沢飛行場・岩国飛行場の三飛行場の米軍の状況（兵力等）

## (回答)

当局が承知している三飛行場の米軍の状況は次のとおりです。

## 【嘉手納飛行場】

- 1 嘉手納飛行場は、沖縄市、嘉手納町、北谷町の3市町にまたがって所在しており、施設面積は、約19.9平方キロメートルであります。  
主な施設としては、飛行場（滑走路 3,700m×90m、3,700m×60m）、整備工場、家族住宅等があります。
- 2 本飛行場には、米空軍第18航空団を中心にF-15（戦闘機）を主とした航空機が配備されているほか、米海軍のP-3C（哨戒機）等も配備されています。米軍のホームページによれば、航空機数は、平成17年11月現在で、F-15が54機、KC-135（給油機）が15機、E-3（早期警戒管制機）が2機、HH-60（汎用ヘリ）が10機となっています。このほかにMC-130（搜索救難機）、RC-135（偵察機）、WC-135（気象観測機）、P-3Cが配備されていますが機数は公表されていません。また、軍人軍属数は、平成14年4月現在で約7,300人と承知しています。

## 【三沢飛行場】

- 1 三沢飛行場は、三沢市、東北町にまたがって所在しており、施設面積は、約16.0平方キロメートルであります。  
主な施設としては、飛行場（滑走路 3,048m×46m）、整備工場、家族住宅等があります。  
なお、本飛行場の一部については、航空自衛隊及び民間航空会社が共同使用しています。
- 2 本飛行場には、米空軍第35戦闘航空団を中心にF-16（戦闘機）を主とした航空機が配備されているほか米海軍のP-3C等も配備されていますが機数は公表されていません。  
また、航空自衛隊においては、F-4（戦闘機）、F-2（戦闘機）、T-4（練習機）、E-2C（早期警戒機）、CH-47（輸送ヘリ）が合計約70機配備されています。

## 【岩国飛行場】

- 1 岩国飛行場は、山口県岩国市、由宇町、広島県大竹市にまたがって所在しており、施設面積は、約5.7平方キロメートルであります。  
主な施設としては、飛行場（滑走路 2,440m×60m）、整備工場、家族住宅等があります。  
なお、本飛行場の一部については、海上自衛隊が共同使用しています。
- 2 本飛行場には、第1海兵航空団を中心にFA-18（戦闘機）を主とした航空機が配備されています。米軍のホームページによるとFA-18のほかにC

H-53（輸送ヘリ）も配備されていますが、航空機の機数は公表されていません。

また、海上自衛隊においては、US-1A（救難機）、U-36A（多用機）、LC-90（連絡機）、EP-3（多用機）、OP-3C（多用機）、MH-53E（掃海・輸送ヘリ）、UP-3D（多用機）が合計約30機配備されています。

2 嘉手納飛行場、三沢飛行場、岩国飛行場の三飛行場における、現在の訓練状況（訓練規模等）

（回答）

米軍の航空機は、一般的に、当該飛行場において離着陸訓練等を行うほか、特定の訓練空域や射撃場を使用し、空対空（戦闘機対戦闘機）あるいは空対地（戦闘機による地上攻撃）などの戦闘訓練を行っているものと承知しています。

ちなみに、防衛施設庁が嘉手納飛行場、三沢飛行場、岩国飛行場のそれぞれの滑走路両端に設置している自動騒音測定装置により測定した結果によると、平成16年度における1日当たりの平均騒音発生回数は、嘉手納飛行場は197回（年間約72,000回）、三沢飛行場は186回（年間約68,000回：自衛隊機、民航機を含む。）、岩国飛行場は137回（年間約50,000回：自衛隊機を含む。）となっております。

3 移転についてどこの機関で、どのような内容を検討しているのか。

（回答）

日本側においては、防衛庁防衛局、防衛施設庁施設部及び外務省北米局が中心となって検討をしており、訓練移転に関することを含め、具体的な実施日程を含めた計画を来年3月までに作成することとしています。

8 影響を受ける関係地域住民への説明について

影響を受ける関係地域住民への説明は、何時、誰が行うのか。

訓練の移転先となる飛行場においては、訓練に伴い騒音が発生することになりますが、当局としては、具体的な訓練計画や規模などを踏まえた上で、予想される騒音の程度を貴市に示すなどして、御理解が得られるよう説明していきたいと考えています。

【現時点で回答が困難なもの】

- 4 訓練の移転先は、千歳、百里、小松、築城、新田原の五飛行場と考えてよい  
か。
- 5 移転規模について、現在、三飛行場で行っている訓練の全てをこれら飛行場  
からなくするのか。三飛行場にも、ある程度の訓練機能を残すのか。五飛行場  
全てに、訓練の分散を考えているのか。  
どのような規模で、移転を考えているのか。（移転兵力数、常駐するのか、戦  
闘機数、訓練回数等）
- 6 訓練が移転された場合、これは恒久的なものとなるのか。
- 7 民商航空機への影響は、どのように想定しているのか。
- 9 今後のスケジュールを詳細に示して欲しい  
「再編に関する勧告」の中で「閣僚は、地元との調整を完了することを確約  
するとともに、事務当局に対して、これらの個別かつ相互に関連する具体案  
を最終的に取りまとめ、具体的な実施日程を含めた計画を2006年3月まで  
に作成するよう指示したとあり、また「これらの具体案は、統一的なパッケー  
ジの要素となるものであり、パッケージ全体について合意され次第、実施が開  
始されるものである。」との表現があるが具体的な内容は。  
計画が作成されるまでに、地元（影響を受ける関係地域住民を含む）の合意  
を得るのか。  
計画が作成された後、地元（影響を受ける関係地域住民を含む）の合意を得  
るのか。

（回答）

御指摘の五飛行場を含む本土の航空自衛隊基地などが訓練の移転先の候補地とな  
り得ると考えていますが、具体的な訓練の内容等の細部については、日米間で調整  
しているところです。来年3月の計画作成に向けて日米協議を加速化し、貴市に対  
して適宜適切に誠心誠意説明を行い、御理解と御協力が得られるよう最大限努力し  
て参りたいと考えています。いずれにせよ、嘉手納飛行場、三沢飛行場及び岩国飛  
行場で行っている訓練のすべてを移転することは考えていません。

平成17年10月29日に実施された日米安全保障協議委員会  
において承認された事項に関する当面の取組に関する  
関係閣僚会合（いわゆる米軍基地再編関係閣僚会合）

## 議 事 次 第

平成18年1月31日（火）  
閣議前（8:40～8:55）  
於：院内大臣室

1. 開会

2. 議題

- （1）日米協議の経緯等について
- （2）地元調整の状況等について

3. 意見交換

4. 閉会

（配布資料）

- 資料1 日米協議の経緯等〈防衛庁〉
- 資料2 地元からの質問等に対する措置状況〈防衛施設庁〉
- 資料3 在日米軍の再編について〈防衛庁〉
- 資料4－1 麻生外務大臣の神奈川県訪問（概要）〈外務省〉
- 資料4－2 麻生外務大臣の山口県及び広島県訪問（概要）〈外務省〉

# 日米協議の経緯等

資料 1

防衛庁

## 趣 旨

日米同盟を安全保障環境の変化に応じて発展させるとの観点から、平成14年12月の安全保障協議委員会（いわゆる「2+2」）以降、日米間で、精力的に協議を実施

昨年2月に開催された安全保障協議委員会において、日米間の共通戦略目標を確認したことを踏まえて、それらの目標を追求する上での日米の役割・任務・能力や在日米軍の兵力構成見直しに関して協議を実施している

## 経 緯

### 【平成17年】

10月29日

日米安全保障協議委員会（「2+2」）共同文書発表

10月31日～

関係自治体（12都道府県、43市町村）への説明

11月11日

閣議決定

※ 政府として、検討を一層促進するとともに、具体的措置の的確かつ迅速な実施を確保するための方策に関し、総合的な観点からの必要な措置を講ずることについて検討

11月15日

いわゆる米軍基地再編関係閣僚会合を開催。同幹事会（局長クラス）を設置

※ 官房長官、沖縄・北方対策担当大臣、防衛庁長官、総務大臣、財務大臣、外務大臣

12月1日

日米協議（課長級）（ハワイ）

12月12～14日

日米協議（審議官級）（東京）

### 【平成18年】

1月11～13日

日米協議（審議官級）（ワシントン）

1月17日

日米防衛首脳会談（ワシントン）

（参考1）

1月24日～26日

日米協議（審議官級）（ハワイ）

（参考2）

(参考1)

日米防衛首脳会談等の概要（米軍再編関連）

平成18年1月  
防 衛 庁

額賀防衛庁長官は、現地時間17日、米国ワシントンでラムズフェルド米国国防長官、ライス米国务長官及びハドレー安全保障担当補佐官と会談を行ったところ、概要以下のとおり。

1 ラムズフェルド国防長官との会談（日米防衛首脳会談）

- 両長官は、日本の安全保障のみならず、地域、世界においても役割が広がっている日米安保の意義と重要性、及び米軍再編を成功させなければならないことにつき、認識が一致。
- 額賀長官より、米軍再編については、日本側が努力する一方で、米側としても一定の譲歩をしてきちんとした形を作り、成功に導くことが確固たる日米同盟に不可欠であること、また、そのためには、地元に対する説明・説得が必要であり、これには多くの時間を要すること等のため、作業を加速することが必要である旨発言。
- これに対して、ラムズフェルド長官からは、本件については、スピードとタイミングが重要であるとの発言があり、両長官は、米軍再編の作業を加速化することで一致。
- 額賀長官より、日米同盟は日米安保共同宣言や97年の「日米防衛協力のための指針」などにより発展してきたが、再編問題は我が国の防衛政策のあり方や将来の日米関係を決定する上で極めて重要な課題であり、最終とりまとめに際して新しい21世紀の日米同盟関係についての一定の政治的なメッセージを国の内外に示すことが重要として、「指針」の問題や新しい日米同盟のあり方について今後議論していく旨発言。
- これに対し、ラムズフェルド長官からは、日本にはより多くの役割を期待している旨発言。

## 2 ライス国務長官との会談

額賀長官より、米軍再編問題について3月までの最終的なとりまとめを行う際には国務省の協力を得たい旨発言したところ、ライス長官より、額賀長官及び麻生外相とともに協力できることを期待している旨発言。

## 3 ハドレー安全保障大統領補佐官との会談

ハドレー補佐官より、米軍再編の問題は、日米安保の成功例であり、是非とも成功裏に決着することが重要との発言あり。これに対し額賀長官より、本件のとりまとめの際には21世紀に果たすべき日米同盟の役割のメッセージを内外に示すべきと考えている旨発言。

以上

日米協議（1月24～26日）について（概要）

1 概要

- 1月24日から26日にかけて、ハワイにおいて、米軍再編等にかかる日米間の協議を実施。
- 日本側からは、山内防衛庁防衛局次長、梅本外務省北米局審議官他、米側からはローレス国防副次官他が参加。
- この会合においては、昨年10月29日に開催された日米安全保障協議委員会（「2+2」）で発出された共同文書を受け、役割・任務・能力及び兵力態勢の再編に関する勧告についての意見交換等を実施。
- 具体的には、役割・任務・能力に関する意見交換のほか、
  - ・ 普天間飛行場代替施設の具体的な在り方
  - ・ 在沖海兵隊の削減やグアムへの移駐とそれに伴う嘉手納飛行場以南の土地の返還に関する計画の具体化
  - ・ 在日米陸軍司令部の改編等に伴うキャンプ座間及び相模総合補給廠の効果的かつ効率的な使用
  - ・ 横田空域の在り方や横田飛行場の軍民共同使用に係る検討
  - ・ 空母艦載機の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐及びそれに伴う関連措置
  - ・ 弾道ミサイル防衛用のXバンド・レーダー・システムの展開地の検討
  - ・ KC-130の普天間飛行場からの移駐 等について個別に意見交換等を実施。地元調整等の観点を踏まえ、在日米軍等とのワーキンググループにおいても、専門的・技術的に課題を整理していくことを確認。
- また、1月17日の額賀防衛庁長官とラムズフェルド米国防長官との会談において額賀長官から言及のあった、21世紀の日米同盟関係についての政治的メッセージについても、非公式に意見を交換。



- 日本側からは、3月に予定される最終取りまとめに向けて、協議を一層加速化させていくべきことを改めて主張。米側も基本的にこれを確認。

## 2 今後の予定

- 次回審議官級協議の日程を調整しつつ、別途、在日米軍等とのワーキンググループによる協議を並行して実施。

(以 上)

## 防衛施設庁

## 「2+2」共同文書に係る主な地元説明状況

平成18年1月30日現在

自治体(関連施設)	共同文書の説明		地元質問事項への回答等状況
	実施月日	説明者	
北海道 (千歳飛行場) 千歳市 苫小牧市	10/31 11/29	札幌局長 木村副長官	12/19 苫小牧市への質問回答 12/19 上記回答について千歳市へ説明 12/21 同じく北海道にも説明
青森県 (三沢飛行場) つがる市 (車力高射訓練場) 三沢市	10/31 12/2	仙台局長 木村副長官	1/16 つがる市議会への説明 1/24 つがる市旧車力村住民へ説明 12/22 苫小牧市への回答について県、三沢市へ説明
茨城県 (百里飛行場) 小川町	11/10 ~11 12/6	東京局長 高木政務官	12/22 苫小牧市への回答について県、町へ説明
東京都 (横田飛行場) 福生市 羽村市 武蔵村山市 立川市 昭島市 瑞穂町	11/10 11/25 11/8 ~ 9 11/29	東京局長 額賀長官 東京局長 高木政務官	
神奈川県 (キャンプ座間) 座間市 (相模総合補給廠) 相模原市 (厚木飛行場) 大和市 綾瀬市 横浜市 海老名市 藤沢市	10/31- 11/17 10/31 1/19 10/31	横浜局長 額賀長官 横浜局次長 木村副長官 横浜局連調室長	12/1 県、両市への質問回答 12/2 相模原市市民協議会へ説明 12/14 座間市長等へ説明 1/13 相模原市長へ説明
石川県 (小松飛行場) 小松市 加賀市 白山市 能美市 川北町	10/31 12/15 ~ 16	大阪局長 高木政務官	12/22 苫小牧市への回答について県、小松市へ説明 1/10 苫小牧市への回答について加賀市、白山市等へ説明
山口県 (岩国飛行場) 岩国市 由宇町	11/4 11/15	施設庁長官 額賀長官	12/21 県、両市町への質問回答 1/20 両議会への説明 1/29~30 由宇町住民へ説明
広島県 (岩国飛行場) 大竹市	~ 16	額賀長官	1/31(予定) 県、市町会へ質問回答
福岡県 (築城飛行場) 行橋市 豊津町 築城町 椎田町	11/8 11/28	施設庁総括施設調査官 額賀長官	12/20 苫小牧市への回答について市、町へ説明 12/27 苫小牧市への回答について県へ説明
宮崎県 (新田原飛行場) 西都市 新富町	11/7 11/25	施設庁施設部長 額賀長官	12/22 苫小牧市への回答について県、市、町へ説明
鹿児島県 (鹿屋飛行場) 鹿屋市	11/7 11/21	施設庁施設部長 額賀長官	12/27 鹿屋市への質問回答
沖縄県 (普天間飛行場ほか) 名護市 宜野座村 東金武村 恩納村 嘉手納町 沖縄市 北谷町 那覇市 浦添市	10/31 ~ 11/2 11/8 ~ 9	施設庁長官 額賀長官	

注: 1 この自治体のほかに、「2+2」共同文書を説明した自治体がある。  
2 築城町と椎田町は、平成18年1月10日に合併し、築上町となる。

# 在日米軍の再編について

防衛庁

## 1. 現 状

- 昨年10月29日、日米安全保障協議委員会（「2+2」）が開催され、共同文書を発表
- 本年3月末までの具体案の最終的な取りまとめに向け、日米外務・防衛当局間の審議官級協議を開催し、協議を継続中
- 1月17日の額賀防衛庁長官とラムズフェルド国防長官との会談において、スピードとタイミングが重要であり、3月末までに最終報告を取りまとめることを確認  
その際、両長官は、米軍再編の作業を加速することで一致

## 2. 課 題

### (1) 関係自治体の理解と協力を得るための取組み

- 在日米軍の再編については、関係自治体に十分な説明を行い、理解と協力が得られるよう努力することが必要

### (2) 関係自治体の要望等に係る施策

- 今後、関係自治体の要望等及び既存の施策を踏まえ、基地周辺対策など防衛庁が実施すべきものに加え、土地返還等に伴う施策のあり方など政府全体で検討することが必要
- また、本検討に当たっては、適切な場において関係自治体の理解と協力が得られるよう努力することが必要

### (3) 在沖海兵隊のグアム移転のための日本政府による適切な資金的その他の措置の検討

- 「2+2」共同文書に示された海兵隊7千人及びその家族のグアムへの移転には、様々なインフラが不足

#### (4) 上記のほか政府全体で取り組みが必要なもの

(参考例)

- 米軍飛行場の軍民共用化に伴う問題点（横田、岩国）
- 横田空域の調整・削減等
- 本土での日米共同訓練時等における課題等

#### (5) 留意点

- 在日米軍の再編は、日米同盟を新たな安全保障環境に適応させ、日本の平和とアジア太平洋地域における平和及び安定を確固たるものとするために不可欠のものであり、政府が責任をもって実現する必要
- また、在日米軍の再編に当たっては、
  - ① 日米間で合意した事業を実施するものであること、
  - ② 本再編を実現するための事業の実施には、多額の経費を要すること、
  - ③ さらに、事業の実施には、長期間を要すること、といった点に留意する必要

### **3. 今後の進め方**

- (1) 次回の審議官級協議は、2月上旬に実施の方向
- (2) 3月までの具体案の最終的なとりまとめまでに、日米間の調整の進展に合わせ、上記課題について整理

麻生外務大臣の神奈川県訪問（概要）

平成 17 年 12 月 26 日

北米局日米地位協定室

**1. 日程**

- 12月26日（月） 厚木海軍飛行場の視察  
座間市長他との意見交換  
キャンプ座間の視察  
相模総合補給廠の視察  
相模原市長、町田市長他との意見交換  
神奈川県知事との意見交換

**2. 米軍施設・区域の視察**

- (1) 厚木海軍飛行場については、大和スポーツセンター屋上から、大和市長、綾瀬市長の案内により、滑走路や飛行場周辺の状況等を視察。
- (2) キャンプ座間においては、施設・区域の東側と西側を結ぶ市道新戸相武台（幅員が狭いとして、地元住民より拡張の要望あり）や、施設・区域内を視察。
- (3) 相模総合補給廠については、相模原駅自動車駐車場屋上から、相模原市長、町田市長の案内により、倉庫や野積場（平時は空地。有事には野戦病院やテントの設置に活用される）の現状等を視察。

**3. 地元関係者との意見交換**

(1) 座間市長他との意見交換

座間市長より、大臣自らの現地視察に謝意を示しつつも、先般の「2+2」の勧告は、地元自治体の頭越しに決められたものであり、国としての誠意が感じられない、日米安保体制の重要性は理解するが、いきなり在日米陸軍司令部が強化されることになり、市民感情からしても受け入れられない旨述べた。

これに対し、麻生大臣より、キャンプ座間は、我が国が置かれた安全保障環境下で日米安保体制上、重要な施設・区域であること、また、本日、「2+2」の

勧告にかかる地元の意見を伺い、米軍施設・区域を巡る実情を見ることにより、勧告の具体化に役立てていきたい旨述べた。

### (2) 相模原市長、町田市長他との意見交換

相模原市長より、先般の勧告の中に以前から要請していた相模総合補給廠の返還が盛り込まれおらず遺憾である旨述べつつ、相模総合補給廠を巡るまちづくり上の障害や小田急多摩線の乗り入れ等の計画の内容について説明。町田市長からも相模総合補給廠が地域発展の妨げになっている旨指摘。

これに対し、麻生大臣より、日米安保体制の重要性を説明するとともに、先般の勧告は、抑止力の維持と地元負担の軽減という2つの目的を達成するとの観点により協議を行ってきたものであること、また、本日の視察は人口密集地の中にある相模総合補給廠の現状を理解する良い機会であった旨述べた。

### (3) 神奈川県知事との意見交換

神奈川県知事より、本日の大臣と地元市長との協議の機会について謝意を表明するとともに、最終報告においては、地元自治体の意見を踏まえ、更なる負担軽減を実現して欲しい旨発言。また、日米地位協定を改定すること及び横須賀に原子力空母を配備しないよう要請があった。

これに対し、麻生大臣より、日米安保体制の重要性を説明しつつ、日米地位協定については運用改善の努力をしていること、特に凶悪犯罪につき起訴前の拘禁移転の途を開いたのは、米軍駐留国の間では日本だけである旨説明。また、横須賀の原子力空母に係る地元自治体の反応は承知している旨述べ、最後に、本日の神奈川県訪問では、関係市長から貴重な御意見、御説明を得られたことを多とし、今後の政府の取組にあたってはなるべく踏まえていきたい旨発言し、会合を終了した。

(了)

## 麻生外務大臣の山口県及び広島県訪問(概要)

平成18年1月16日  
北米局日米地位協定室**1. 日程**

- 1月16日(月) 午前 山口県知事との意見交換  
 午後 岩国飛行場の視察  
 岩国市長、由宇町長との意見交換  
 広島県知事、廿日市市長、大竹市長との意見交換

**2. 米軍施設・区域(岩国飛行場)の視察**

海上自衛隊第31航空群司令より、岩国における海自の活動概要につき説明を受けた後、滑走路沖合移設事業の現状を含め、岩国飛行場内を視察。

**3. 地元関係者との意見交換****(1) 山口県知事、岩国市長、由宇町長との意見交換**

山口県知事より、岩国において今以上の基地機能強化は容認できない、NLPのなし崩し的な実施は容認できないとの県の基本的立場について改めて説明。特に、騒音問題については、地元が納得できる説明をお願いしたい旨要請があった。

岩国市長及び由宇町長からは、大臣自らの現地視察に謝意を示しつつも、先般の「2+2」の勧告は、騒音の厚木から岩国への単なる「たらい回し」であり、また空母艦載機の移駐は、岩国基地機能の大幅な強化であり、受け入れられない旨発言。

これに対し、麻生大臣より、我が国が置かれた安全保障環境下での日米安保体制の重要性を説明しつつ、在日米軍全体の状況を総合的に検討した上で、抑止力維持と国内全体の負担軽減を図るとの観点から、御理解と御協力を御願いたい、また、地元から頂いているご質問については、誠心誠意お答えしていきたい旨述べた。

**(2) 広島県知事、廿日市市長、大竹市長との意見交換**

広島県知事、廿日市市長及び大竹市長より、空母艦載機の移駐による、宮島をはじめとする同県の観光、産業への影響及び低空飛行訓練の増加の可能性を挙げ、先般の「2+2」の勧告の見直しについて要請があった。

これに対し、麻生大臣より、日米安保体制の重要性及び空母艦載機の特性等について説明するとともに、頂いている質問については、米側との調整を要するものもあるが、できるだけ早く回答したい、本日の訪問では、地元の貴重な御意見、御説明を得られたことを多とする旨発言し、会合を終了した。(了)

(お知らせ)

平成18年2月7日  
防 衛 庁

日米防衛・外務当局間会合について

1. 2月9日から11日まで、東京において日米防衛・外務当局間会合が開催される。
2. この会合には、日本側においては金澤防衛庁防衛局次長、梅本外務省北米局審議官他が、米側においてはローレス国防副次官他が参加し、10月29日に開催された日米安全保障協議委員会（「2+2」）で発出された共同文書を受け、兵力態勢の再編に関する勧告についての意見交換等を行う予定である。

問い合わせ先：防衛局防衛政策課